ISSN 0389－8105

大阪市立自然史博物館館報

33

（平成19年度）

〒546-0034　大阪市東住吉区長居公園1番23号
大 阪 市 立 自 然 史 博 物 館
平成21年 3 月31日発行

目　　次

指定管理者制度の弊害と公立博物館の地方独立行政法人化 ・・・・・・・・・・・・ 1

調査研究事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

資料収集保管事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

展覧事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

普及教育事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

広報事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

刊行物 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

連携(ネットワーク) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

庶務 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

指定管理者制度の弊害と公立博物館の地方独立行政法人化

館　長　　山　西　良　平

当館においては昨年4月より指定管理者制度が導入され、財団法人大阪市文化財協会による管理・運営がなされています。全国的に「民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上を図るとともに、経費の節減等を図る」という大義名分のもとに、すでに約4分の1の公立博物館にこの制度が導入されているようです。

ところが大阪市では導入からわずか半年余りの市議会において、次のような質疑が交わされています（大阪市議会、平成17年度決算特別委員会議事録、平成18年11月から引用）。

〈質問〉指定管理者制度の導入に当たっては、ともすれば制度の適用が優先されてきた面もあったのではないか、また、施設によっては事業の特性を十分に配慮すべきではなかったかというふうに思うこともございます。もちろん官から民へという流れ、これを否定するわけにはいきませんし、必要不可欠な今の時代のニーズであります。ただ、私たちもちょっとその流れに乗り過ぎているというような面もあったかなという、若干の反省もあるようにも思っております。特に、文化・芸術施設については、単なる箱物の管理運営ではなく、事業の継続性に対する配慮が必要であり、これらは採算性だけで判断すべきものでない施設の最たるものではないかと考えております。既に教育委員会所管の東洋陶磁美術館や自然史博物館などは、今年度から指定管理者制度のもとで運営されていますが、同制度の適用後半年余り経過した中で、指定管理者制度の現状についての評価あるいは課題認識についてお聞きいたします。

〈答弁〉―前略―美術館・博物館施設では、まず、貴重な収蔵作品や資料の適正で安定的な管理とともに、これらの継続的な調査研究が不可欠でございますし、また、大型企画展を初めとして、事業展開は中長期的なビジョンのもとになされなければなりません。

さらに、作品等の寄贈や寄託あるいは貸借などは長年の信頼関係の上に成り立っておりまして、この信頼関係は、将来にわたって維持していかなければならないといった事情がございまして、博物館施設の事業運営において継続性の確保は欠かせない要件でございます。

こうした事情はいずれも博物館業務の根幹にかかわるものでございますので、指定期間を定めて管理代行者を選定する指定管理者制度のもとでは、博物館施設の事業運営上、大きな課題であると認識をいたしております。

このように指定管理者制度の弊害が、現場はもちろんのこと、行政のトップと議会の間で共有されるようになったのです。

そして大阪市では博物館・美術館の独立行政法人化の検討が進められてきました。指定管理者制度が必ずしも博物館施設にふさわしい経営形態ではなく、行革の流れの中では直営も困難という認識が出発点になっています。しかし現行の地方独立行政法人法の枠内では、博物館は対象施設となりえないことから、大阪市は「地方においても基幹業務の継続性を確保し、より柔軟かつ効果的な運営を実現するため、地方独立行政法人による博物館の設置運営が地域の実情に即して選択可能となるよう、必要な措置を求める」として国に対して構造改革特区（規制緩和）を提案しました。

提案（第10次）は平成18年秋に提出されましたが、残念ながら「特区として対応不可」として却下されました（平成19年2月）。しかし、この動きは並行していた博物館法改正論議に反映され、地方独立行政法人制度が博物館の今後の経営形態のひとつの選択肢として俎上に載りました。

平成18年、19年の日本博物館協会主催の全国博物館大会決議においても、「地方独立行政法人制度が博物館にも適用され、地域の実情に即して選択可能となるよう、必要な措置を早急に講ずることを要望する」という趣旨の文言が盛り込まれ、博物館界の関心と共感も広がりつつあります。

このような流れの中で、大阪市は平成20年春に独立行政法人化を求めて２度目の特区提案（第13次）を行なっているところです。

公共施設の管理代行者を、期間を限定しつつ競争原理に基づいて選定するという指定管理者制度は、もともとハードを主体とする施設に対する民間参入を想定してデザインされた経営形態です。学術研究、資料収集保管、展示、普及教育などの多面的な公的事業を担って常に5年、10年先を見据えながら活動していかなければならない博物館の安定的な経営にとって、この制度が適合しているとはとうてい考えられません。この制度が博物館界から一掃されることを強く求めます。

〈参考〉山西良平（2007年）自然史系博物館と指定管理者制度について－大阪市立自然史博物館の事例を中心に－．タクサ　日本動物分類学会誌23号，11-18頁.

調査研究事業

本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるから、博物館活動の根底に調査研究が位置づけられなければならない。自然史博物館はその50年余に及ぶ活動から、公立博物館としては群を抜く標本や資料の蓄積をもつ。基礎科学分野の研究機関として、これらは重要な社会的使命を帯びるものである。さらに、文部科学省指定の研究機関であり、科研費の申請資格や日本育英会（現：独立行政法人日本学生支援機構）の免除職の適用など、研究機関として一定の地位を確立している。自然史科学研究者が横断的にそろう博物館施設として中核的な使命を持つ博物館でもあり、自然史科学分野の発展のためにも調査研究面での競争力強化とその推進体制の整備が急務となっている。

今年度は、学芸員の個別テーマによる研究をはじめ、「淀川水系の水質・生物調査」等の学芸課をあげて取り組み市民も巻き込んだ調査活動、「西日本自然系博物館ネットワークによるGBIF事業」等の博物館連携による調査研究を実施してきた。その成果は館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、特別展や講演会を通じて市民に普及した。

Ⅰ．研究体制

学芸員は，館長を除き全員が学芸課に所属し，５部門の研究室で研究業務に携わっている．

館　長	山西良平（Ryohei YAMANISHI）	
動　物	波戸岡清峰（Kiyotaka HATOOKA）	主任学芸員
研究室	和田　岳（Takeshi WADA）	学芸員
	石田　惣（So ISHIDA）	学芸員
昆　虫	金沢　至（Itaru KANAZAWA）	主任学芸員
研究室	初宿成彦（Shigehiko SHIYAKE）	学芸員
	松本吏樹郎（Rikio MATSUMOTO）	学芸員
植　物	佐久間大輔（Daisuke SAKUMA）	学芸員
研究室	内貴章世（Akiyo NAIKI）	学芸員
	志賀　隆（Takashi SHIGA）	学芸員
地　史	樽野博幸（Hiroyuki TARUNO）	学芸課長
研究室	川端清司（Kiyoshi KAWABATA）	研究副主幹
	塚腰　実（Minoru TSUKAGOSHI）	学芸員
第四紀	石井久夫（Hisao ISHII）	主任学芸員
研究室	石井陽子（Yoko ISHII）	学芸員
	中条武司（Takeshi NAKAJO）	学芸員

平成19年3月31日現在

Ⅱ．研究テーマ

■山西良平（館長）

(1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
(2) 日本の干潟の多毛類フォーナの調査研究
(3) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査研究

■波戸岡清峰（動物研究室）

(1) ウナギ目魚類の系統分類学的研究
(2) 大阪湾，瀬戸内海及びその周辺海域の魚類相の調査

■和田　岳（動物研究室）

(1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
(2) 大阪の都市公園の鳥類相の調査
(3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
(4) 淀川水系の鳥類・両生爬虫類・哺乳類の分布についての研究
(5) 大阪府下の哺乳類の分布についての研究

■石田　惣（動物研究室）

(1) アッキガイ類、ムカデガイ類などの軟体動物の生態学・行動学的研究
(2) 博物館標本から推定する生物相の変遷
(3) 生物映像のアーカイビングとその活用
(4) 淀川水系の無脊椎動物相と分布
(5) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相

■金沢　至（昆虫研究室）

(1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
(2) 近畿地方の蛾類記録の整理
(3) アサギマダラの移動の調査
(4) 昆虫・クモの光周性の研究

■初宿成彦（昆虫研究室）

(1) 新生代の昆虫化石の研究（遺跡の昆虫遺体も含む）
(2) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査
(3) セミに関する研究
(4) ツガにつくカサアブラムシとその天敵に関する調査

■松本吏樹郎（昆虫研究室）

(1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性，分類，系統学的研究
(2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
(3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査

■佐久間大輔（植物研究室）

(1) 外生菌根性菌類の生態学的研究
(2) 丘陵地の生物群集の景観生態学的研究
(3) 二次林植物群集の研究

(4) 菌類インベントリーの手法と体制
(5) 博物館情報システムの構築

■**内貴章世**（植物研究室）
(1) アリドオシ属（アカネ科）の分類学的研究および繁殖生態学的研究
(2) 異型花柱性の進化に関する研究
(3) サツマイナモリの集団遺伝学的研究
(4) ルリミノキ属（アカネ科）の分類学的研究および高次倍数化に関する研究

■**志賀　隆**（植物研究室）
(1) コウホネ属（スイレン科）の分類学的および生物地理学的研究
(2) 植物の雑種形成および雑種種分化に関する研究
(3) 水生植物の保全に関する研究
(4) 水湿地の植物相に関する研究

■**樽野博幸**（地史研究室）
(1) ステゴドン科（長鼻類）の分類と系統に関する研究
(2) 大阪平野および周辺地域における、鮮新-更新世の古脊椎動物相の変遷と、生層序区分に関する研究
(3) 中国産長鼻類に関する研究
(4) 長鼻類の足跡化石に関する研究

■**川端清司**（地史研究室）
(1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
(2) 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
(3) 現生放散虫に関する研究

■**塚腰　実**（地史研究室）
(1) 新生代古植物相の研究
(2) ヒシ科化石の分類学的研究
(3) ショウガ科果実化石の分類学的研究

■**石井久夫**（第四紀研究室）
(1) 大阪平野第四紀層産貝化石の古生態と古環境に関する研究
(2) 長野県野尻湖層産淡水貝化石の研究（野尻湖貝類グループの一員として）
(3) 干潟に生息する現生貝類の研究

■**石井陽子**（第四紀研究室）
(1) 大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
(2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究

■**中条武司**（第四紀研究室）
(1) 干潟などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
(2) 淀川水系の水質や環境に関する研究
(3) 大阪平野の地下水利用に関する研究

Ⅲ．文部省科学研究費補助金を受けて行った研究

1．当館学芸員が研究代表者となったもの

■若手研究（B）

研究課題	研究代表者
鮮新世から更新世に日本から絶滅した甲虫類に関する研究	初宿成彦
（３年間継続の２年目）	（課題番号18770074）

○10月22～25日北海道に出張し、化石調査を行った。
○３月１日～５日の５日間、中華人民共和国・北京市に出張し、標本調査を行った。

■基盤研究（C）

研究課題	研究代表者
ヒシ科の進化系統の研究；新属化石からさぐるヒシ科の進化	塚腰　実
(2年間継続の1年目)	（課題番号19540499）

○日本各地のアスナロビシ属の標本調査を行った。

2．当館学芸員が研究分担者となったもの

■基盤研究（A）

研究課題	研究代表者	当館分担者
アジア産農林害虫・有用昆虫の種情報の体系化・ネットワーク化と分散検索システム	多田内修	金沢　至
（３年間継続の２年目）		（課題番号18208006）

○昆虫類の完模式標本のデータを入力した。

3．当館学芸員が研究協力者となったもの

■基盤研究（A）

研究課題	研究代表者	当館協力者
日華植物区系の西端としての南ヒマラヤ地域の植物の多様性	邑田　仁	内貴　章世
（３年間継続の１年目）		（課題番号17255004）

○12月5日～12月22日の18日間、タイ王国に出張した。
○タイ王国チェンマイ県，及びメーホーンソン県の約15地点において、野生植物および有用植物の調査を行い、約

650種4000点のさく葉標本を作製した。

Ⅳ．財団等の助成を受けて行った研究

■環境科学研究所研究奨励金

研究課題	研究代表者
水生植物シモツケコウホネ（スイレン科）の保全生物学的研究	志賀　隆

○栃木県固有種で絶滅が危惧されるシモツケコウホネ（絶滅危惧A類）の根茎成長および開花フェノロジーに関する調査研究を行った。

■河川財団河川整備基金助成事業

研究課題	研究代表者
大和川における絶滅危惧植物ヒキノカサの遺伝的多様性の解析と保全個体群のスクリーニング	内貴章世
（課題番号19－1215－016）	

○キンポウゲ科の絶滅危惧種ヒキノカサについて、国内6集団について酵素多型解析を行い、さらに大和川集団では交配実験を行った。

■昭和聖徳記念財団研究助成

研究課題	研究代表者
水生植物コウホネ属（スイレン科）の系統地理学的研究	志賀　隆

○水生植物であるコウホネ属を対象に日本全国および韓国，中国などからサンプルを集め、分子マーカーを用いて系統地理学的な解析を進めた。

■日本生命財団学際的総合研究助成

研究課題	研究代表者	当館分担者
環境保全と地盤防災のための大阪平野の地下水資源の活用法の構築	益田晴恵（大阪市立大学）	中条武司

■アメリカ合衆国農務省

研究課題	研究代表者
ツガカサアブラムシおよびツガカイガラムシの天敵の評価と収集	初宿成彦

○アメリカ人研究者らと国内各地で野外調査を行った。

■日産科学振興財団理科/環境教育助成

研究課題	研究代表者
NPOと連携した生徒・教員向け隠花植物実習およびキット開発	佐久間大輔

○コケ・地衣・菌類などを用いた多様性学習の教材化をはかった。2007年11月～2008年10月。400千円。

■日本自然保護協会プロナトゥーラファンド

研究課題	研究代表者
大阪地域における蘚苔類・菌類レッドリスト試作のための基礎研究	佐久間大輔

○蘚苔類、大型菌類（キノコ）の大阪府域におけるレッドリスト試作を試み、特に堺市域の基礎情報の整備を行った。2007年10月～2009年9月。500千円。

■大阪市文化財総合調査業務

研究課題	研究代表者	当館分担者
畔田翠山さく葉帳の調査	佐久間大輔	瀬戸　剛

○幕末の紀州藩士畔田翠山は、白山、吉野などで丹念な植物調査を行った本草家として数多くの著作を残している。堀田龍之介旧蔵の同氏関連資料の中に植物標本が含まれており、大阪市立博物館より自然史博物館に移管され、保存されている。歴史的にも、また日本の博物学史の上でも重要な意味を持つこの標本について、最低限の修理を施すとともに、大阪市指定文化財としての価値を評価するため、その内容および状態を調査する。大阪自然史センターが受託、元興寺文化財研究所の指導を受け修理と撮影記録を行う。

（参考）上野益三（1974）畔田翠山がつくったさく葉帖 NatureStudy20（8）5-8.

Ⅴ．海外派遣

■科研費（基盤研究A）による出張

氏　名：内貴章世

日　程：2007年12月5日～12月22日（18日間）

出張先：タイ王国

目　的：南ヒマラヤ地域の植物相調査。詳しくはⅢ－3「基盤研究（A）」を参照。

■科研費（若手研究B）による出張

氏　名：初宿成彦

日　程：2008年３月１日～５日（５日間）
出張先：中華人民共和国北京市
目　的：化石比較のための現生甲虫類標本調査。

■文部科学省学芸員等在外派遣研修による出張

氏　名：松本吏樹郎
期　間：平成20年11月15日～平成21年２月29日
研修機関：ロンドン自然史博物館
(The Natural History Museum, London)
テーマ：「学術研究から一般の利用までを含めた自然史コレクションの運用手法の研究」
目的及び内容：自然史博物館における、研究者から一般の利用までを考慮した、コレクションの構築と運用法、情報の発信技術を修得し、利用者がコレクションにアクセスしやすい環境を整えることを目指して、これらの点で世界でも先進的な取り組みのなされているロンドン自然史博物館で実際にコレクション運営に携わりながら研修を行った。

■昭和聖徳記念財団研究助成による出張

氏　名：志賀隆
日　程：2007年8月2日～8月25日
出張先：中華人民共和国黒龍江省、湖北省
目　的：スイレン科コウホネ属植物の野外調査および標本調査。詳しくは前項「昭和聖徳記念財団研究助成」を参照。

Ⅵ. 著作活動

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNatureStudy誌は、ns.と略記した。同誌の表紙が「ジュニア会員のページ」と一連の内容の場合は、表紙を記事の一部とみなしてページを付し，シリーズ名は省略した。当館学芸員以外の著者には氏名に*を付した。

【館長】

山西良平（共同執筆）(2007.6) ３章４－１ホウネンエビ、カブトエビ、カイエビ、６河口の生物. 大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編，大和川の自然. 大阪市立自然史博物館叢書１，大阪，pp.45-48, 61-62.

山西良平（2007.8）自然史系博物館と指定管理者制度について－大阪市立自然史博物館の事例を中心に－[日本動物分類学会第43回大会特別講演].タクサ　日本動物分類学会誌（23）:11-18.

山西良平（2007.10）不自然の中の自然 淀川汽水域の水辺の生物. ns. 53（10）:134-137.

水嶋英治*・西源次郎*・山西良平・栗原祐司*（2008.1）座談会「博物館を考える」～新しい博物館像について～.月刊マナビィ，2008年1月号：6-10.

山西良平（2008.3）小難しい学芸員のやさしい小噺 ホウキムシとムラサキハナギンチャク. ns. 54（3）：32.

【動物研究室】

波戸岡清峰（2007.6）３章大和川水系の水辺の生き物，１魚類.大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編，大和川の自然. 大阪市立自然史博物館叢書１，大阪，pp.27-37. pls.5-6.

波戸岡清峰（2007.7）５章脊椎動物の標本作り，１魚類，両生類，爬虫類の標本.大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編，標本の作り方. 大阪市立自然史博物館叢書２，大阪，pp.91-104.

波戸岡清峰（2007.7）大阪市立自然史博物館・収蔵庫の現状と管理.全国科学博物館協議会,全科協ニュース,37（4）:3-5.

Motomura, H*., Ito, M*., Ikeda, H*., Endo, H*., Matsunuma, M.* and Hatooka, K. (2007.8) Review of Japanese records of a grouper, *Epinephelus amblycephalus* (Perciformes, Serranidae), with new specimens from Kagoshima and Wakayama. Biogeography. 9: 49-56.

波戸岡清峰・金山敦*（2007.12）城北ワンドで採集された外来魚コウタイと大阪府におけるタイワンドジョウ科魚類の現状. ns, 53（12）：158-161,172.

松尾淳一*・太田祐子*・御旅屋瑛一*・風間美穂*・熊代直生*・竹下栄*・中村進*・西村静代*・和田岳（2007.6）大阪府におけるミソサザイの繁殖期の分布状況.Strix,25:1-15.

和田岳（2007.6）長居公園の鳥.大阪府立学校環境緑化研究会会報,33:8-10.

和田岳（分担執筆）(2007.6) 大和川の自然.東海大学出版会.

和田岳（2007.6）大阪バードフェスティバル2007の報

告.ns.53:74.
和田岳（分担執筆）(2007.7) 標本の作り方　自然を記録に残そう.東海大学出版会.
和田岳 (2007.11) 博物館紹介 (1) ：大阪市立自然史博物館.鳥学通信,16.
和田岳 (2008.2) 冬期における果実枯渇のタイミングとヒヨドリの暮らし.フェノロジー研究会誌,43:5-8.
和田岳 (2008.1) 大きいネズミと小さいネズミ.ns.54:6.
和田岳 (2008.2) ツブツブ糞探しシカとウサギの生息調査.ns.54:19.
和田岳 (2008.3) 大阪府外来生物目録の調査について.都市と自然,384:7-9.
石田惣 (分担執筆) (2007.6) 大和川の自然.東海大学出版会.
石田惣（分担執筆）(2007.7) 標本の作り方　自然を記録に残そう.東海大学出版会.
石田惣 (2007.11) カニを生むカニ-サワガニ.ns.53:151.
石田惣 (2008.3) ウラニワーズの始祖、ダーウィン.In:ダーウィン展,国立科学博物館・渡辺政隆・読売新聞東京本社事業開発部編,p104-105.

【昆虫研究室】

山本博子*・中谷憲一*・宮武頼夫*・金沢至 (2007.6) ムラサキツバメとメンガタスズメ類. 長居公園の蝶と蛾の最近の話題. ns.53 (6) :2-4,16.
金沢至 (2007.6) ハグロトンボ, ムカシトンボ, トガリアメンボ, ジャコウアゲハ, ホソオチョウ, 大和川水系に定着しつつあるホソオチョウ. 大和川の自然. 大阪市立自然史博物館叢書１:77-80,84,104.
金沢至・初宿成彦 (2007.6) 昆虫. ５. 移入種. 大和川の自然. 大阪市立自然史博物館叢書１:104.
金沢至・河合正人* (2007.6) クルマバッタ, マダラバッタ. 大和川の自然. 大阪市立自然史博物館叢書１:78-79.
金沢至 (2007.7) ３チョウ類・ガ類の標本, ４直翅類の標本, ５トンボ類の標本, ７クモ類・多足類の標本. 標本の作り方. 大阪市立自然史博物館叢書２:63-66,71.
多田内修*・金沢至 (2007.9). アジア産農林害虫・有用昆虫の種情報の体系化・ネットワーク化と分散検索システム２. 種情報データベースの構築と利用２. 日本昆虫学会第67回大会（神戸）講演要旨：108.
金沢至・山本治*編著 (2007.10) アサギマダラ年鑑2004. 日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト.
金沢至 (2007.10) 各都道府県のマーキング状況 (2004年). アサギマダラ年鑑2004:1-85.
金沢至 (2007.12) 春まで生きたバッタたち. ns.53 (12) :12.
初宿成彦 (2007.4) Ⅴ.クズネツォフ博士を偲ぶ。ねじればね (119) :19-20. 日本甲虫学会.
Montgomery, M.* , R. V. Driesche*, S. Salom*, W. Lu*, G. Yu*, J. Zhou*, L. Li* and S. Shiyake (2007.5) Enhancement of foreign collection and quarantine evaluation of hemlock woolly adelgid natural enemies. In: Gottschalk, K. W. (ed.), Proceedings, 17th U.S. Department of Agriculture interagency research forum on gypsy moth and other invasive species 2006. U.S. Department of Agriculture, Forest Service: 78.
初宿成彦 (2007.6) ツガヒメテントウを高野山で採集. KINOKUNI (71) :8.和歌山昆虫研究会.
Sota, T.*, S. Shiyake and M. Hayashi* (2007.6) Donaciine beetles collected in Primorsky and Sakhalin, Russia, 2005, with a note on the seasonal occurrence of donaciine beetles in Primorsky. Entomol. Rev. Japan 62(1): 121-126. 日本甲虫学会.
沼田英治*・初宿成彦（共著）(2007.7) 都会にすむセミたち―温暖化の影響?. 海游舎. 162pp,
初宿成彦 (2007.7) 虫の赤ちゃんークマゼミの赤ちゃん. 文部科学時報 (1578) :85.
初宿成彦 (2007.7) 世界のセミ200種. 大阪市立自然史博物館. 126pp.
初宿成彦 (2007.7) クマゼミの鳴く時間. ns.53 (7) :6.
初宿成彦 (2007.8) クマゼミ初鳴日の予想方法について. ns.53 (8) :2-3.
初宿成彦[文責] (2007.8) 靭公園セミのぬけがらしらべ2006の結果. ns.53 (8) :7-8.
初宿成彦・宮武頼夫* (2007.8) 近畿中部のエゾゼミ分布地. ns.53 (8) :9-11.
初宿成彦 (2007.8). 神社でヒグラシさがし～ヒグラシは大阪で平地にすめるのか？～. ns.53 (8) :11-12.
初宿成彦 (2007.12) クロオビツツハムシが大和葛城山に分布. ns.53 (12) :5.
安井通宏*・初宿成彦 (2007.12) 淀川水系（汽水域～中流域）の河原・河川敷に生息するゴミムシ類について（予

報). 日本甲虫学会2007年度年次大会・講演要旨.
初宿成彦 (2008.3) 温暖化とセミの分布変化。昆虫と自然 43 (4) :6-10.
Shiyake, S., Y. Miyatake*, A. Lamb* and M. Montgomery* (2008.2) HWA phenology and predacious beetle community on Japanese hemlocks. Hemlock Woolly Adelgid Symposium 12-14 February, 2008, Hartford CT, USA.
Havill, N.* and S. Shiyake (2008.2) Molecular ecology of HWA, its host and natural enemies. Hemlock Woolly Adelgid Symposium 12-14 February, 2008, Hartford CT, USA.
安井通宏*・初宿成彦・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ (プロジェクトY) 甲虫班 (2008.3) 大和川水系のミズギワゴミムシ類の種類相と分布状況. 大阪市立自然史博物館研究報告 (62) :27-45.
初宿成彦・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ (プロジェクトY) 甲虫班 (2008.3) 大和川水系におけるヒメドロムシ相および分布について. 大阪市立自然史博物館研究報告 (62) :47-64.
初宿成彦・佐久間大輔・Lamb,A. (2008.3) 虫の赤ちゃんーハリモミとツガを行き来するカサアブラムシ. 文部科学時報 (61) : 裏表紙扉。文部科学省。
野尻湖昆虫グループ (林成多*・初宿成彦) (2008・3) 第16次野尻湖発掘で見つかった昆虫化石. 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 (16) :49-51.
Matsumoto, R.・Konishi K.*(2007) Life histories of two ichneumonid parasitoids of *Cyclosa octotuberculata* (Araneae), *Reclinervellus tuberculatus* (Uchida) and its new sympatric congener (Hymenoptera: Ichneumonidae: Pimplinae). Entomological Science, 10(3): 267-278.
Matsumoto, R. ・Fukushima H.* & Morimoto K.*(2007) Discovery of Sapygidae (Hymenoptera) in Japan. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History, 61: 15-18.
高須賀圭三*・松本吏樹郎 (2007.9) マダラコブクモヒメバチ*Zatypota albicoxa* (Walker,1874) の寄生行動および生活史戦略の解明 (Ichneumonidae;Pimplinae). 日本昆虫学会第67回大会 (神戸) 講演要旨 : 32.
矢代学*・松本吏樹郎・西日本ハチ研究会 (2007.9) 日本から新たに記録されたミコバチ科 (Sapygidae:Hymenoptera) とその生活史. 日本昆虫学会第67回大会 (神戸) 講演要旨 : 22.
渡辺恭平*・松本吏樹郎 (2007.9) 旧北区から発見された *Aplomerus* 属のヒメバチについて (Hymenoptera,Ichneumonidae,Xoridinae). 日本昆虫学会第67回大会 (神戸) 講演要旨 : 89.
松本吏樹郎 (2007.9) タナグモ類を利用するニッコウクモヒメバチ*Brachyzapus nikkoensis* (Uchida) (ハチ目 ; ヒメバチ科 ; ヒラタヒメバチ亜科) の寄主転換および寄主操作の可能性. 日本昆虫学会第67回大会. 日本昆虫学会第67回大会 (神戸) 講演要旨 : 22.
松本吏樹郎 (分担執筆) (2007.7)「標本の作り方—自然を記録に残そう」. 大阪市立自然史博物館叢書2. 190pp.東海大学.

【植物研究室】

佐久間大輔 (分担執筆) (2007.7) 標本の作り方自然を記録に残そう.東海大学出版会.
佐久間大輔・塚腰実・那須孝悌・趙哲済*・清水和明* (2007.11) 大阪市立自然史博物館の現世・最終氷期最寒冷期対比植生図について。日本植生史学会第22回大会講演要旨集、P－1.
佐久間大輔 (2007.12) 自然史系博物館のデジタル標本データ発信のための課題. 21世紀の生物多様性研究「生物多様性インフォマティックスを創出する２」ワークショップ要旨集3-6.
佐久間大輔 (2007.12) 菌類からみたナラ林.KONC.(54) : 149-154
佐久間大輔 (2008.1) 里山環境の歴史性を読み解く農業及び園芸Vol.83,No.1pp.183-189
道盛正樹*・佐久間大輔・木村全邦*・芦田喜治* (2008.3) 大阪府蘚苔類資料１大阪城公園の蘚苔類. 大阪市立自然史博物館研究報告62:75-80.
木村全邦*・佐久間大輔 (2008.3) 大阪府の蘚類－中島徳一郎蘚類コレクション－ (附中島コレクション目録CD). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第40集.
大阪市 (2008.3) 博物館・美術館資料でかたるおおさか事典. 96pp. (佐久間分担執筆).
大阪市 (2008.3) 博物館・美術館資料で語る大阪事典. 95pp. (佐久間・志賀分担執筆).
初宿成彦・佐久間大輔・Lamb,A.* (2008.3) . 虫の赤ちゃんーハリモミとツガを行き来するカサアブラムシ. 文部

科学時報（61）：裏表紙扉．文部科学省．
内貴章世（2007.6）10-1大和川を囲んでいた照葉樹林.大和川の自然.大阪市立自然史博物館叢書1:86-87.
内貴章世（2007.7）2.植物・菌類の標本,1.植物の押し葉（さく葉）標本.標本の作り方.大阪市立自然史博物館叢書2:29-39.
内貴章世（2007.7）木の葉の葉脈標本作り.標本の作り方.大阪市立自然史博物館叢書2:40-41.
Naiki A.（2008.3）Breeding system in *Mussaenda shikokiana*（Rubiaceae）. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History 62:21-26.
内貴章世・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ植物班（2008.3）大和川水系におけるアリドオシ（アカネ科）の分布と染色体数.大阪市立自然史博物館研究報告62:75-80.
Shiga T., and Y. Kadono*(2007.5)Nuphar xfluminalis, a new hybrid from central Japan. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 58(1): 43-50.
志賀隆（2007.6）10-4水草.大和川の自然.大阪市立自然史博物館叢書1:89-92.
志賀隆（2007.7）2.植物・菌類の標本,2.水草・海草の標本.標本の作り方.大阪市立自然史博物館叢書2:43-45.
志賀隆（2007.10）オギとススキ.ns.53（10）:129-130.
志賀隆（2007.11）緑の侵略者、ボタンウキクサはどこからやってくるのか？～水草の分布情報を大募集！！～.ns.53（11）:150.
Shiga T., and Y. Kadono*(2008.2) Genetic relationships in Nuphar (Nymphaeaceae) in central to western Japan as revealed by allozyme analysis. Aquatic Botany 88(2): 105-112.
志賀隆・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ水生植物班（2008.3）大和川水系におけるカワヂシャと外来植物オオカワヂシャおよび雑種の分布.大阪市立自然史博物館研究報告62:65-74.

【地史研究室】

Kawamura, Y.*, Taruno, H., Inada, T.*（2007）A primitive mammoth molar from Himeshima Island, Oita Prefecture, western Japan. The Quart.Res.(Daiyonki-kenkyu), 46, 300-411.
樽野博幸・河村善也*（2007）東アジアのマンモス類―その分類、時空分布、進化および日本への移入についての再検討―.「亀井節夫先生傘寿記念論文集」，亀井節夫先生傘寿記念事業会，59-78.
樽野博幸・杉本厚典*（2008）第Ⅲ章遺構と遺物の検討第1節NG03-5次調査地出土の動物骨同定とウマの埋葬.「長原遺跡発掘調査報告ⅩⅦ」，財団法人大阪市文化財協会，129-132.
川端清司（2007.4）宝石になる鉱物。ns,53（4）：7.
川端清司（2007.7）化石・岩石・鉱物の採集法と保存法.大阪市立自然史博物館編著、標本の作り方、1-12. 東海大学出版会.
川端清司（2008.3）丹波竜の発掘現場訪問－現在進行形の『恐竜ラボ』-. ns.54（3）：2-3,12.
川端清司（2008.3）鬼虎川遺跡出土の銅剣鋳型の石質について．鬼虎川遺跡の銅鐸鋳型－第62次発掘調査報告，東大阪市，104-107.
川端清司（2008.3）大阪のビルの石材－アーバンジオロジー入門－．大阪市立自然史博物館ミニガイドNo.13（改定版），24pp.
塚腰実（2007.7）軟らかい地層に含まれる植物化石の取り出し方．大阪市立自然史博物館編著，標本の作り方，16-19. 東海大学出版会.
塚腰実・南木睦彦*・百原新*（2007.11）大阪市立自然史博物館に収蔵されている三木茂博士コレクション．日本植生史学会第22回大会講演要旨集，0－4.
佐久間大輔・塚腰実・那須孝悌・趙哲済*・清水和明*（2007.11）大阪市立自然史博物館の現世・最終氷期最寒冷期対比植生図について．日本植生史学会第22回大会講演要旨集，P－1.
K. Sawada*, S. Akimoto*, M. Tsukagoshi, H. Nakamura*, D. K. Suzuki*(2007.11) Plant Polymer Palaeobiology-Aphidoidea(PL3-A)Project: Geochemical and Morphological Studies on Gall (-like) Fossils. Okada, H., Mawatari, S. F., Suzuki, N. and Gautam, P. (eds.) Origin and Evolution of Natural Diversity, Proceedings of International Symposium ‘‘The Origin and Evolution of Natural Diversity’’ 1-5 October 2007, Sapporo, 171-174.
塚腰実・岡本素治*（2008.2）備北層群塩町層産ヒシ科化石の新知見．日本古生物学会157回例会講演要旨，P33.

【第四紀研究室】

石井久夫（2007.5）マメシジミのなかまーとっても小さい

二枚貝－. ns.53(5):60.

大阪市立自然史博物館編（2007.6）大和川の自然. 東海大学出版会.（石井久夫分担執筆）

石井久夫・西光慎治*（2007.7）奈良県明日香村カヅマヤマ古墳の漆喰中から出土したイワガキと思われる貝殻遺物. Venus66(1-2):114.

石井久夫（2008.2）二上山周辺のザクロ石採掘－記録と紹介－. ns.54(2):16-18.

大竹左右一*・伊藤慎*・中条武司（2007.4），長崎県対馬に分布する新第三系対州層群中に見られるデルタシステムの時間変化に伴うプロセス変化. 堆積学研究，64，61-64.

大阪市立自然史博物館（編著）（2007.6）大和川の自然. 大阪市立自然史博物館叢書①，東海大学出版会，132pp.（中条：分担執筆・編集）

大阪市立自然史博物館（編著）（2007.7）標本の作り方－自然を記録に残そう－. 大阪市立自然史博物館叢書②，東海大学出版会，190pp.（中条：分担執筆・編集）

中条武司（2007.8）友の会合宿「九州天草」報告. ns.53(8)：110.

中条武司・成瀬元*・佐藤智之*・齋藤有*・荷福洸*・山下翔大*（2007.9）伊勢湾南西部櫛田川河口干潟の堆積相とその３次元分布. 日本地質学会第114年学術大会（札幌）講演要旨：113.

山下翔大*・中条武司・成瀬元*・荷福洸*・齋藤有*・佐藤智之*（2007.9）伊勢湾南西部櫛田川河口干潟における砕屑物の粒度特性. 日本地質学会第114年学術大会（札幌）講演要旨：254.

中条武司（2008.3）とある自然史系博物館学芸員の“本当の”仕事. Musa（博物館学芸員課程年報），追手門学院大学，22：1-4.

大阪市（2008.3）博物館・美術館資料でかたるおおさか事典. 96pp.（中条：分担執筆：Ⅱ. 大阪の自然と環境 10. 大和川流域の自然. 20-21）

大阪市（2008.3）博物館・美術館資料で語る大阪事典. 95pp.（中条：分担執筆：１. 大阪の姿. 2-3.）

Ⅶ. 各種委員・役員・非常勤講師・その他

波戸岡清峰
日本魚類学会評議員

金沢　至
日本昆虫学会評議員
日本昆虫学会電子化推進委員長
日本環境動物昆虫学会評議員
日本鱗翅学会近畿支部幹事長
渡りチョウを調べる会HP・編集担当
大阪市立大学非常勤講師「生物学実験Ｂ」

初宿成彦
日本甲虫学会運営委員・編集委員
日本鞘翅学会非常任幹事
日本環境動物昆虫学会企画委員
滋賀県生き物総合調査委員

佐久間大輔
総合地球環境研究所共同研究員

川端清司
日本地質学会評議員・代議員
地学団体研究会全国運営委員・大阪支部運営委員
地学団体研究会第61回総会（大阪）準備委員会事務局長

塚腰　実
化石研究会運営委員
地学団体研究会大阪支部運営委員
植生史学会編集委員
第22回日本植生史学大会準備委員長
大阪市立大学教務部非常勤講師「大阪の自然」担当

中条武司
日本地質学会代議員
日本堆積学会事務局員
地学団体研究会大阪支部運営委員
大阪教育大学非常勤講師「地球学Ⅰ」「地学構造論Ⅱ」

Ⅷ. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成19年度に受け入れた外部研究者は次表のようである。期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

上中央子（2007）河内平野南部における縄文時代晩期以降の植生変遷―長原・瓜破遺跡を例として―. 日本植生史

学会第22回大会口頭発表、O-7.
塚腰実・岡本素治（2008.2）備北層群塩町層産ヒシ科化石の新知見。日本古生物学会157回例会講演要旨，P33。
佐藤隆春・大和大峯研究グループ（2007）紀伊山地中央部の中・古生界（その10）－大杉地域－．地球科学61（1）:33-47.
佐藤隆春・室生団体研究グループ（2007）円礫からなる小長尾礫層は火砕流堆積物のグラウンド・レイヤーか．地学団体研究会第61回総会講演要旨集・巡検案内書:143.
佐藤隆春・室生団体研究グループ（2007）室生火砕流堆積物にみる噴火現象と給源火山．地学団体研究会第61回総会講演要旨集・巡検案内書:131-134.
室生団体研究グループ（佐藤隆春，別所孝範，茅原芳正，古山勝彦，鎌田浩毅，山本俊哉）・和田穣隆（2007）室生火砕流堆積物と大台コールドロン．地学団体研究会第61回総会講演要旨集・巡検案内書:255-266.
佐藤隆春・大滝ダム地すべり問題調査団（2007）奈良県大滝ダム試験湛水による地すべりの地質学的背景．地学団体研究会第61回総会講演要旨集・巡検案内書:107-108.
室生団体研究グループ（佐藤隆春・古山勝彦・別所孝範）（2007）礫サイズの異質岩片を含む火砕流堆積物．日本地質学会第114年学術大会講演要旨:220.
佐藤隆春・大和大峯研究グループ（2006）大峯・大台コールドロン－紀伊山地中央部にみられる弧状および半円形の断層・岩脈群と陥没構造－．地球科学60（5）:403-413.
佐藤隆春・大滝ダム地すべり問題調査団（2006）大滝ダム試験湛水で発生した白屋地区地すべり災害．第16回環境地質学シンポジウム論文集:265-270.
佐藤隆春・田崎正和（2006）阪神・淡路大震災から11年－現実と課題－．地学教育と科学運動（51）:3-10.
佐藤隆春・大滝ダム地すべり問題調査団（2006）大滝ダム湛水による白屋地区地すべり災害．地学団体研究会第60回つくば総会プログラム・講演資料集:168-169.
佐藤隆春・古山勝彦・茅原芳正．別所孝範・鎌田浩毅・山本俊哉（2006）室生火砕流堆積物の給源火山は紀伊山地・大台コールドロン．日本火山学会講演予稿集2006年度秋季大会:126.
佐藤隆春・大和大峯研究グループ（岩橋豊彦，奥田尚，佐藤浩一，竹内靖夫，南浦育弘，八尾昭）（2006）紀伊山地中央部に形成された中新世の大規模コールドロン．日本地質学会第113年学術大会講演要旨:230.
佐藤隆春・大和大峯研究グループ（岩橋豊彦，奥田尚，佐藤浩一，竹内靖夫，南浦育弘，八尾昭）（2006）紀伊山地中央部に形成された中新世の大規模コールドロン．地学団体研究会第60回つくば総会プログラム・講演資料集:164-165.
佐藤隆春（2006）二上山とその周辺の地質風景．国土と地質と観光と～地球が創る美しさ，夢中になれる日本の自然～:128.NPO法人地質情報整備・活用機構，173p.
佐藤隆春（2006）室生火砕流堆積物がつくる大和高原の地質風景．国土と地質と観光と～地球が創る美しさ，夢中になれる日本の自然～:117.NPO法人地質情報整備・活用機構，173ｐ.
澤田義弘（2007）ツノフトツツハネカクシ*Osorius taurus*．昆虫館だより，95:3.
澤田義弘（2007）オオホシオナガバチ．昆虫館だより，96:2.
澤田義弘（2007）ムクゲキノコムシ科．（分担執筆）原色日本昆虫大図鑑II（甲虫篇），北隆館，東京.
澤田義弘（2007）箕面の名前を冠する昆虫たち・―ミノオキイロヒラタヒメバチ*Xanthopimpla clabata* Krieger―．昆虫館だより，97:2.
Sato, K. Iwatsubo, Y. and Naruhashi, N. (2007) Chromosome studies of native lowland diploid species of *Taraxacum* (Asteraceae) in Japan. Cytologia 72: 309-317.
Sato, K., Iwatsubo, Y., Watanabe, M., Serizawa, S. and Naruhashi, N. (2007) Chromosome numbers of *Taraxacun officinale* (Asteraceae) in Toyama Prefecture, central Japan. J. Phytogeogr. Taxon. 55: 1-7.
Sato, K., Iwatsubo, Y., Watanabe, M., Serizawa, S. and Naruhashi, N. (2007) Cytogenetic study of Japanese triploid *Taraxacun officinale* (common dandilion:
Asteraceae). Cytologia 72: 475-482.
Sato, K., Iwatsubo, Y. and Naruhashi, N. (2007) Distribution pattern of *Taraxacun officinale* (Asteraceae) polyploidy forms on Tanegashima Island, Japan. J. Phytogeogr. Taxon. 55: 91-97.
鳴橋直弘（2007）アジア産キイチゴ属の分類学的ノート（１）ツクシアキツルイチゴと中国の*Rubus tsangorus*．植物地理・分類研究55:103-106.

Hongo, M.(2007) Stratigraphic distribution of Hemiptelea (Ulmaceae) pollen from Pleistocene sediments in the Osaka sedimentary basin, southwest Japan. Review of Palaeobotany and Palynology, 144, 287-299.

本郷美佐緒・水野清秀・山口正秋・納谷友規（2007）関東平野菖蒲コアにおける約45万年前以降の花粉化石群変遷と本邦消滅属ハリゲヤキ属花粉化石の産出状況．日本植生史学会第22回大会講演要旨集，0-10.

本郷美佐緒・山口正秋・納谷友規・中里裕臣・水野清秀（2007）関東平野中央部菖蒲コア上部に認められるコナラ属アカガシ亜属花粉の多産層準．2007年日本第四紀学会講演要旨集，78-79.

Hongo, M. and Nirei, T. (2007) Lower Middle Pleistocene pollen biostratigraphy of the Kazusa and Osaka Groups. International Symposium on Quaternary Environmental Changes and Humans in Asia and the Western Pacific, AIST Tsukuba. November, 19-22, 2007. In Mizuno, K. and Yamaguchi, M. eds, Abstracts volume of International Symposium on Quaternary Environmental Changes and Humans in Asia and the Western Pacific (Geological Survey of Japan Interim Report no.42, 147).

本郷美佐緒・保柳康一・卜部厚志（2007）新潟平野北部における最終氷期最盛期の古植生．日本花粉学会第48回大会講演要旨集，63.

本郷美佐緒（2007）房総半島の中部更新統藪層下部の花粉化石群集．日本地質学会関東支部講演資料集，1，63.

道盛正樹（2005）洛中のゼニゴケ類,Ns.51（1）,大阪市立自然史博物館友の会.

道盛正樹（2007）近畿地方新産ナガケビラゴケとその油体の記載,蘚苔類研究（Bryol.Res.）9（5）.

西村直樹･芦田喜治･日出幸啓子・今川邦彦・川合啓二・狩野登之助・立石幸敏・道盛正樹（2007）足羽山（福井県福井市）の蘚苔類目録,福井市自然史博物館研究報告54:83-90.

道盛正樹（2007）胞子でふえる植物「コケのなかま」,生きている猪名川,287-294pp.,野生生物を調査研究する会.

梅岡宏史・道盛正樹・白木江都子・瀬崎堅吉・辻井隆昭（2008）大阪城公園植物リストおよびカラー図.追手門学院創立120周年記念事業大阪城プロジェクト調査報告書,いのちの城・大阪城公園の生きもの,pp57-99.

道盛正樹（2008）大阪城公園および大阪地域の苔（タイ）類相,追手門学院創立120周年記念事業大阪城プロジェクト調査報告書,いのちの城・大阪城公園の生きもの,pp43-44.

道盛正樹（2008）大阪城公園のシダ類,追手門学院創立120周年記念事業大阪城プロジェクト調査報告書,いのちの城・大阪城公園の生きもの,pp45-49.

道盛正樹・佐久間大輔・木村全邦・芦田喜治（2008）大阪府蘚苔類資料1,大阪城公園の蘚苔類.大阪市立自然史博物館研究報告,62：13-20.

西村直樹・川合啓二・道盛正樹・秋山弘之（2007）兵庫県六甲山地の蘚苔類,人と自然,No16.兵庫県立人自然の博物館.

Lamb, A. S. Shiyake, S. Salom, M. Montgomery, and L. Kok. An Update from Japan. Hemlock Woolly Adelgid Symposium 12-14 February, 2008, Hartford CT, USA.

Shiyake, S., Y. Miyatake, A. Lamb and M. Montgomery (2008.2). HWA phenology and predacious beetle community on Japanese hemlocks. Hemlock Woolly Adelgid Symposium 12-14 February, 2008, Hartford CT, USA.

Lamb, A., S. Shiyake, S. Salom, M. Montgomery, and L. Kok. 2008. Evaluation of the Japanese Laricobius sp. n. and other natural enemies of hemlock woolly adelgid in Japan. Pp. 29 36. In B. Onken and R. Reardon [eds.], Fourth Symposium on Hemlock Woolly Adelgid in the Eastern United States. USDA Forest Service, Hartford, CT. FHTET-2008-01.

初宿成彦・佐久間大輔・Lamb,A.（2008）.虫の赤ちゃんーハリモミとツガを行き来するカサアブラムシ．文部科学時報（61）：裏表紙扉.文部科学省.

表１．平成19年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
上中央子	研究生	本人	塚腰　実
石田路子	外来研究員	本人	石田　惣
岡本素治	外来研究員	本人	塚腰　実
小郷一三	外来研究員	本人	山西良平
佐藤隆春	外来研究員	三国丘高校 岡村務校長	石井久夫
澤田義弘	外来研究員	本人	初宿成彦
清水裕行	外来研究員	本人	金沢　至
末吉昌宏	外来研究員	森林総合研究所 鈴木和夫理事長	松本吏樹郎
玉置さやか	外来研究員	本人	和田　岳 樽野博幸
永田映子	外来研究員	本人	和田　岳
鳴橋直弘	外来研究員	本人	内貴章世
西澤真樹子	外来研究員	本人	和田　岳
花崎勝司	外来研究員	本人	波戸岡清峰
林　勇夫	外来研究員	本人	山西良平
本郷美佐緒	外来研究員	本人	塚腰　実
松村　勲	外来研究員	本人	山西良平
丸井英幹	外来研究員	本人	内貴章世
道盛正樹	外来研究員	本人	佐久間大輔
山崎俊哉	外来研究員	本人	内貴章世
Ashley Lamb	外来研究員	本人	初宿成彦

資料収集保管事業

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は低温燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、展示・研究活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なものについては広く標本情報を公開している。

Ⅰ．寄贈および交換標本

■動物研究室

浪速区のアカハラ　1点　中村　恵昭氏
隠岐のヒミズ　1点　幸塚　久典氏
隠岐のイタチ　1点　幸塚　久典氏
山口県のタヌキ他　7点　橋本　順子氏
奈良市のウグイス　1点　河原　風花氏
天王寺動物園のバーバリーシープ他
19点
芦田　貴雄・高見　一利氏
羽曳野市のエナガ　1点　津田　滋氏
四日市市の水生動物　4点　福西　勝之氏
奈良市中町の鳥ほか　7点　桜谷　保之氏
隠岐のネズミ　1点　幸塚　久典氏
シジュウカラ　1点　佐藤　青矢氏
和歌山市のヒヨドリ　1点　石井　葉子氏
加古川市のエゾムシクイ　1点　吉田　彩夏氏
住吉区のメジロ　1点　稲辺　大和氏
中央区のメジロ　1点　平田　友美氏
隠岐のメジロ　1点　幸塚　久典氏
奈良市のホオジロとヘビ　2点　河原　風花氏
奈良県のアカネズミ，カエル，カワニナ他
10点　西澤真樹子氏
隠岐のスミスネズミ　1点　幸塚　久典氏
太子町のテン　1点　前田　蕗氏
四条畷市のウサギ　1点　西畑　敬一氏
泉南市のアカエリヒレアシシギ　1点　貫名　達也氏
住吉区のクマネズミ　1点　三宅　啓二氏
長崎県のアカエリヒレアシシギ　1点　浅井眞紀子氏
泉南市のスナメリ他　2点
石井　葉子・西澤真樹子氏
天草周辺の海岸動物　52点
友の会天草合宿参加者
泉佐野市のアカネズミ　1点　西澤真樹子氏
豊能町初谷のイノシシ他　2点　岡村　和政氏
天理市のタヌキ　1点　河原　風花氏
五條市のハタネズミ他　3点
前田　蕗・丸山健一郎氏
葛城市のムクドリ　1点　前田　蕗氏
神戸市灘区のシジュウカラ　4点　松浦　宣弘氏
長崎県のイタチ　1点　浅井　雅俊氏
天理市のタヌキ他　2点　河原　和子氏
城ヶ崎の海岸動物　3点
大阪湾海岸生物研究会
川西市のテン　1点　高田　公代氏
福井県若狭町のシカ　1点　米澤　里美氏
猪名川町の陸貝，サワガニ　2点　冨永　修氏
旧宝塚ファミリーランドの骨　103点
阪急アミューズメントサービス
天理市のイノシシ　1点　河原　風花氏
田倉崎の海岸動物　5点
大阪湾海岸生物研究会
河内長野市のアブラコウモリ　1点　下湯瀬夏生氏
加古川市のヌートリア　1点　永田　映子氏
大阪市鶴見区のアブラコウモリ　1点　中谷　憲一氏
能勢町のヒミズ　1点　浦野　信孝氏
奈良市白亳寺のイノシシ　1点　岡村　和政氏
箕面市のシカ　1点　冨永　修氏
粉河高校の標本　69点　實宝　正芳氏
奈良市のテン他　3点
鳥居　春己・前田喜四雄氏
滋賀県のニホンザル　7点
白川　芳雄・西澤真樹子氏
大阪市北区のヒヨドリ　1点　井上　美紀氏
大阪市住之江区のクマネズミ　1点　西尾フミ子氏
高槻市のタヌキ　1点
田口　祐・西澤真樹子氏
羽曳野市のタヌキ　1点　松本　英知氏
和泉市のタヌキ　1点　西澤真樹子氏
阪南市のタヌキ　1点　西澤真樹子氏
高槻市のヤマアカガエル・クチベニマイマイ他
12点
西澤真樹子・高田みちよ氏
高槻市のハシブトガラス　1点　藤田　芙美氏
神戸市西区のニホンジカ　1点　米澤　里美氏

五條市のアライグマ　1点　丸山健一郎氏
橿原市のアライグマ　2点
前田　一郎・前田　蕗氏
奄美大島の陸貝　2点　内田　正吉氏
守山市の淡水貝類　2点　乾　公正氏
長崎県のハクビシン　1点　藤田　宏之氏
上関町のイソヒヨドリ　1点　野元　彰人氏
上関町の潮間帯生物　25点
大阪湾海岸生物研究会
上関町の潮下帯ベントス　10点
大阪湾海岸生物研究会
和歌川河口のベントス　16点
ジュニア自然史クラブ参加者
隠岐のサンゴ他ベントス　3点　幸塚　久典氏
三重県伊賀市のシカ　1点　浦野　信孝氏
堺市のツバメ　1点　花井　英典氏
鶴見区のムクドリ　1点　中谷　憲一氏
箕面市のアオゲラ他　7点　澤田　義弘氏
徳島県のヒラテテナガエビ　1点　河中　康鋭氏
三河湾浚渫窪地産ハナオカカギゴカイ
2点　西栄　二郎氏
天理市のヤマガラ他　4点　河原　風花氏
河内長野市のヒヨドリ　2点　中田　幸一氏
東大阪市のハシブトガラス　1点　大野　誠氏
西宮市のアオバズク　1点　広岡　隆氏
阿倍野区のスズメ　1点　宮崎　捷世氏
中央区のスズメ　1点　藤本龍之介氏
堺市のスズメ　1点　河野　勇希氏
東大阪市のスズメ　1点　金原　悠人氏
東大阪のシロハラとメジロ　2点　中野　博氏
河内長野市のノウサギ　1点　浦野　信孝氏
北海道のエゾジカ　2点　前畑　慎吾氏
京都府南山城村のオオコノハズク　1点　中津　弘氏
淀川のタテボシガイ　1点　岡村　修氏
石川県能登島他産棘皮動物　158点　幸塚　久典氏
西表島のヒメシオマネキとベトナムの*Pseudogelasimus loii*
2点　和田　恵次氏
成ケ島のハシナガイルカ他　2点
花野　晃一・生嶋史朗氏
石川県能登島他産ウミシダ類　130点　幸塚　久典氏
南港野鳥園のベントス　4点　和田　太一氏
堺市のイタチ　1点
渡辺　達也・木原　敏江氏
茨木市のイタチ　1点　西川　喜朗氏
大津市のイタチ　1点　三原　学氏
東淀川区のイタチ　1点　萩野　哲氏
池田市のイタチ　1点　今城香代子氏
寝屋川市のイタチ　1点　冨永　修氏
生野区のイタチ　1点　河合　真弓氏
北区のイタチ　1点　加藤　敦丈氏
浪速区のイタチ　1点　中村　恵昭氏
高槻市のイタチ　1点
西澤真樹子・高田みちよ氏
四条畷市のイタチ　1点　太田　理氏
山口県のタヌキ　1点　松本　順子氏
淡路島のシカ　1点　前迫　ゆり氏
奈良県宇陀市のシカ　1点　冨永　修氏
箕面市のシカ　2点　浦野　信孝氏
泉佐野市のアカネズミ　1点　西澤真樹子氏
河内長野市のモグラ　1点　田中久美子氏
堺市のアブラコウモリ　1点　下村　晴美氏
羽曳野市のアブラコウモリ　1点　麻野　浩氏
堺市のハシブトガラス　1点　浦野　信孝氏
枚方市のヒナコウモリ　1点
高田みちよ・村島祐希氏
堺市のアブラコウモリ　1点　増田　静子氏
松原市のアブラコウモリ　1点　六車　恭子氏
長居公園のアブラコウモリ　1点　三輪　真悟氏
豊中市のアブラコウモリ　1点　森　康貴氏
北海道のコアホウドリ他　6点　中田千佳夫氏
四条畷のアライグマ他　3点　松井　敬子氏
泉佐野市のアオサギ　1点　富田　直樹氏
河内長野市のカワセミ　1点　伊藤　輝久氏
広島県のハシボソガラス　1点　北野　由嵩氏
六甲山のジネズミ　3点　大石　玲子氏
葛城市のタヌキ　1点　前田　蕗氏
堺市のヒナコウモリ　1点　浦野　信孝氏
泉佐野市のタヌキ　1点　冨永　修氏
京都府宮津市のテン　1点　谷　陽子氏
四条畷市のマムシ　1点　西澤真樹子氏
新潟県のスズメ他　3点　大木　彩子氏
箕面市のヒミズ　1点　小野　順子氏
長野県のモモジロコウモリ　1点　宮本久美子氏
液浸収蔵庫のニホンザル標本　1点　川村　俊蔵氏

巨椋池干拓池のイタチ　1点　瀬戸　淳氏
枚方市禁野のイタチ　1点　吉住　卓家氏
箕面市のヒミズ　1点　安田　美沙氏
*Phyllochaetopterus lauensis*の副模式標本
1点　西　栄二郎氏
アブラコウモリ　1点　森田美由紀氏
大東市のコウベモグラ　1点　田中　光彦氏
長崎県のスナメリ　1点　中田　晴彦氏
大阪市東住吉区のクマネズミ　1点
岡出　朋子・新田　哲志氏
岸和田市のネズミ　1点　西澤真樹子氏
三重県のアブラコウモリ　1点
奥田　幸男・幸江・悠太氏
奈良市のタヌキ　1点　西澤真樹子氏
大東市のイタチ　1点　西畑　敬一氏
豊中市のハシブトガラス　1点　大矢　樹氏
堺市のハシブトガラス　1点　花井　英典氏
守山市のハシボソガラス　1点　乾　公正氏
石川県のタヌキ　1点　藤田　宏之氏
桜井市のタヌキ　1点　河原　風花氏
貝塚市のタヌキ　1点
松下　宏幸・泉谷　聡一・西澤真樹子氏
福知山市動物園のヤギ他　12点　和久　衛氏
奈良県のテン　1点　福西　勝之氏
青森県および韓国のイシガイ類　4点　近藤　高貴氏
福知山のキツネ他　3点　和久　衛氏
箕面のイノシシとタヌキ　2点　碇　強氏
能勢町のウシ　1点
河原　和子・河原　風花氏
天王寺動物園のツキノワグマ，オランウータン他
6点　高見　一利氏
吹田市のツツドリ　1点　平　軍二氏
生野区のトラツグミ　1点　藤本龍之介氏
天理市のタヌキ　1点　西澤真樹子氏
西宮市のシロハラ　1点　田中　貞之氏
長居のドバト　1点　六車　恭子氏
長野県のコルリ　1点　吉田美都紀氏
田尻町のハクセキレイ　1点　石井　葉子氏
中央区のキビタキ　1点　長埜智佳子氏
京都府のコウベモグラ　1点　米澤　里美氏
奈良県下北山村のユビナガコウモリ　1点　中井穂瑞嶺氏
兵庫県美方郡村岡町のヒミズ　1点　冨永　修氏
箕面のヒミズ　1点　関本　康弘氏
奈良県平群町のヒミズ　1点　冨永　修氏
奈良市中村のヒミズ　1点　河合　正人氏
徳島県美馬郡木屋平村のヒメネズミ　1点　冨永　修氏
屋久島のコウベモグラ　1点　藤井　俊夫氏
堺市のアブラコウモリ　1点　浦野　信孝氏
大東市のイタチ他　4点　西畑敬一氏他
川上村のテン他　4点　木村　全邦氏
モクズガニのゾエア幼生　20点　小林　哲氏
大阪湾の底曳網による無脊椎動物　21点
友の会行事「秋祭り」参加者
高槻市のシカ　1点　冨永　修氏
龍野のシカ　1点　浦野　信孝氏
豊中市のアオバズク　1点　吉水　由紀氏
河内長野市のテン　1点　横山　太氏
中央区のキクイタダキ　1点　執行　一正氏
岸和田市のタヌキ　1点　西澤真樹子氏
大東市のタヌキ　1点　西畑　敬一氏
箕面市のシカ他　2点　浦野　信孝氏
桜井市のクチベニマイマイ　1点　志賀　愛咲氏
高槻市のドバト　1点　藤田　芙美氏
大阪のイタチとタヌキ　2点　横山　太氏
*Namalycastis rhodochorde*の副模式標本
1点　西　栄二郎氏
奈良市のタヌキ　1点　河原　風花氏
堺市のアライグマ　1点　浦野　信孝氏
北区のキビタキ　1点　佐々木　勇氏
三田市のヤマカガシ　1点　山田　英雄氏
太子町のユビナガコウモリ　1点　高田　直俊氏
富田林市と大阪狭山市のハツカネズミ
2点　松下　宏幸氏
橿原市のシロハラ　1点　前田　一郎氏
佐渡のヒメネズミ　1点　菊池　隆氏
山口県のタヌキ　1点　橋本　順子氏
阪南市のイタチ他　6点　飯田　政治氏
鶴見区のムクドリ　1点　中谷　憲一氏
岸和田市のムクドリ　1点　白木　茂氏
奈良市のタヌキ　1点　河原　風花氏
兵庫県のテン　1点　山田　英雄氏
岡山県のヌートリア　1点　川原　啓路氏
滋賀県のタヌキ　1点　藤田　宏之氏
山口県のアオサギ　1点　北野　由嵩氏

沖縄県のマングース	1点	古谷亜矢子氏
新潟県のタヌキ	1点	大木　彩子氏
奈良市のヤマカガシ	1点	河原　風花氏
奈良市のネコ	1点	河原　風花氏
泉佐野市のイタチ	1点	西澤真樹子氏
池田市のコウベモグラ	1点	梶山　健二氏
福井県のイタチ	1点	三原　　学氏
奈良県広陵町のタヌキ	1点	前田　一郎氏
天理市福住のタヌキ	1点	河原　風花氏
奈良市のタヌキ	1点	河原　風花氏
山口県岩国市のタヌキ	1点	
		西澤真樹子・杉本　雅志氏
千葉県のダチョウ（雛）	1点	佐藤　剛大氏
三重県のイタチ	1点	新保　満子氏
福知山市のオオミズナギドリ他	9点	和久　　衛氏
滋賀県のトビ	1点	
		西澤真樹子・松浦　宣弘・北野　由嵩・山森　幸恵氏
阪南市のユビナガコウモリ	1点	植木　祐輔氏
兵庫県のカスミサンショウウオ	1点	藤田　宏之氏
滋賀県のハタネズミ	1点	森田　　諒氏
東大阪市のアブラコウモリ	1点	奥田　理紗氏
堺市のドブネズミ	1点	竹田　吉郎氏
新潟県のヒミズ	1点	大木　彩子氏
能勢町のテン	1点	難波希美子氏
葛城市のイタチ	1点	前田　みさ氏
堺市のイタチ	1点	高濱沙緒理氏
伊丹市のイタチ	1点	中島　健治氏
石川県のテン	1点	谷　　春代氏
五條市のイタチ	1点	丸山健一郎氏
宝塚市のテン	1点	高橋　弘志氏
宇陀市のイタチ	1点	河原　風花氏
島根県のイタチ	1点	幸塚　久典氏
和歌山市のイタチ	1点	矢田部典子氏
神奈川県のテン	1点	矢島　　仁氏
柏原市のタヌキ	1点	浦野　信孝氏
葛城市のタヌキ	1点	前田　　蕗氏
箕面市のイノシシ	1点	澤田　義弘氏
等脚類のPARATYPE標本	35点	布村　　昇氏
高槻市のコベソマイマイ	1点	高田みちよ氏
渥美半島沖のヌノメアカガイ	1点	木村　昭一氏
西宮市のオナガガモ	1点	広岡　　隆氏
豊中市のトラツグミ	1点	飯島　　昌氏

北海道のミソサザイ	1点	小野寺　歩氏
大東市のアオバト	1点	建家　あい氏
神戸市のルリビタキ	1点	谷　　陽子氏
堺市のメボソムシクイ	1点	弘岡　和子氏
堺市のルリビタキ	1点	増田　静子氏
此花区のメジロ	1点	石田　幸子氏
高槻市のヤブサメ	1点	杉之原専司氏
京都府のヒヨドリ	1点	高原　　慧氏
長居のドバト	1点	岡出　朋子氏
宮崎県のシロハラ	1点	田中多美子氏
生野区のシロハラ	1点	石田　幸子氏
香芝市のツバメ	1点	丸山健一郎氏
高槻市のイワツバメ	2点	瀧端真理子氏
豊中市のカワセミ	1点	大矢　　樹氏
奈良県生駒市のイタチ	1点	前田　　蕗氏
青森県のケフサイソガニ	1点	西澤真樹子氏
松原市のイタチ	1点	井上　竜馬氏
京都府のキツネ	1点	永井　敦子氏
能勢町のイタチ	1点	難波希美子氏
山口県のテン	1点	橋本　順子氏
奈良県のムクドリ	1点	前田　　蕗氏
インドネシアのヨロイハブ	1点	乾　　久子氏
和歌山県のシカとイノシシ	2点	佐藤　光裕氏
能勢町のシカ	1点	小松　弘明氏
阿倍野区のイタチ	1点	吉村　典子氏
和歌山市のイタチ	1点	矢田部典子氏
岬町のジネズミ他	22点	森田　勝視氏
滋賀県のタヌキ	1点	藤田　宏之氏
茨木市のフクロウ	1点	佐々木　勇氏
豊中市のシロハラ	1点	大矢　　樹氏
八尾市のメジロ	1点	太田　　理氏
和歌山県のスズメ	1点	宮本久美子氏
池田市のシロハラ	1点	今城香代子氏
富田林市のタヌキ	1点	横山　　太氏
天王寺動物園のエランド	1点	天王寺動物園
天王寺区のメジロ	1点	指物谷太志氏
橿原市のチョウゲンボウ	1点	中森日出夫氏
大東市のイタチ	1点	西澤真樹子氏
淀川汽水域のカニ	2点	
		国土交通省淀川河川事務所
近木川のマツカゼガイ	3点	和田　恵次氏
和泉市のタヌキ	1点	西澤真樹子氏

熊取町のノウサギ　1点　浦野　信孝氏
泉佐野市のジネズミ　1点　西澤真樹子氏
対馬のシカとイノシシ　1点　藤田　宏之氏
吹田市のツグミ　1点　橋本　寿紀氏
岬町のネズミ他　11点　森田　諒氏
西宮市のゴイサギ　1点　広岡　隆氏
榛原町のシロハラ　1点　前田　蕗氏
高槻市のリス　1点　藤田　芙美氏
長野県のイノシシ　2点　小林　昌和氏
北海道のクロテン　1点　疋田　英子氏
高槻市のヒヨドリ　1点　藤田　芙美氏
長居のハシブトガラス　1点　杉本　伸氏
奈良県のハツカネズミ　2点　河原　風花氏
田尻町のハツカネズミ　1点　森本　静子氏
長野県のオコジョ　1点　松下　宏幸氏
堺市のタヌキ　1点　冨永　修氏

■昆虫研究室

日本産ハネカクシ科タイプシリーズ
10点　林　靖彦氏
日本産昆虫　589点　春澤圭太郎氏
マレーシア産昆虫　70点　春澤圭太郎氏
世界の蝶・蛾（岡コレクション）2072点　安田　綾子氏
北米産セミ　12点
Dr Mike Monygomery
日本産甲虫　600点　中川　護氏
三重県産キバネツノトンボ　2点　加納　康嗣氏
日本産マルテントウダマシ科模式標本
6点　生川　展行氏
日本産・海外産昆虫　8点　林　靖彦氏
スジアカクマゼミ　18点　松井　正人氏
近畿地方及び沖縄産半翅類及び甲虫
15点　市川　顕彦氏
岬町産タイワンエンマコオロギ　4点　柳原　浩良氏
横山創カミキリコレクション　30000点　横山美千子氏
八木正道カミキリコレクション 40000点　八木　正明氏
大和川水系のヒメドロムシ　363点
河野芳美・勇希・美幸氏
北海道産ハネカクシ科タイプシリーズ
3点　林　靖彦氏

■植物研究室

寄贈および交換（＊）標本.
近畿地方産植物　500点　瀬戸　剛氏
近畿地方産植物　100点
大本花明山植物園*
日本産植物　300点　藤井　伸二氏
日本産植物　100点
兵庫県人と自然の博物館*
日本産植物　200点
京都大学総合博物館*
日本産菌類標本　150点
関西菌類談話会
大阪府産変形菌類　50点　田中久美子氏

■地史研究室

寄贈標本なし

■第四紀研究室

大阪市内ボーリング資料　13件　都市整備局

Ⅱ．館員による資料収集

■動物研究室

担当学芸員は波戸岡…H，石田…Ｉと略記する.
淀川流域（大阪府、京都府）で淡水魚類を採集
(9月，2月，H)
山口県上関町で海産魚類を採集　(8月，H)
熊本県天草で海産魚類を採集　(4月,5月，H)
熊本県天草地方で海産無脊椎動物を採集　(4月、5月、I)
淀川水系で淡水産無脊椎動物を採集　(4～2月、I)
大阪府岬町で海産無脊椎動物を採集　(4～7月、11月、I)
大阪府阪南市（男里川河口）で海産無脊椎動物を採集
(6月、I)
神奈川県真鶴町で海産無脊椎動物を採集　(7月、I)
山口県上関町で海産無脊椎動物を採集　(7月、I)
和歌山県和歌山市（和歌川河口）で海産無脊椎動物を採集
(7月、I)
大阪府泉佐野市で海産無脊椎動物を採集　(10月、I)

■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集，大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で，担当学芸員（金沢…K，初宿…S，松本…Mと略記）が行った出張は次の通り．調査研究や資料収集のほか，普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した.

４月３～５日　山梨県北杜市ほか　ツガの甲虫類（S）
４月６日　神戸市北区　ツガの甲虫類（S）
４月７日　高槻市　ツガの甲虫類（S）
４月９日　神戸市北区　ツガの甲虫類（S）

4月12日	近江八幡市	琵琶湖岸の甲虫（S）
4月15日	箕面市	昆虫相調査（M）
4月19日	兵庫県三田市有馬富士公園	ハチ類（M）
4月22日	高槻市三島江	レンゲ畑の昆虫（M）
4月28日	兵庫県三田市有馬富士公園	ハチ類（M）
5月３日	兵庫県姫路市	クモ類（M）
5月４日	兵庫県三田市有馬富士公園	ハチ類（M）
5月８日	貝塚市馬場	昆虫一般（M）
5月８・13日	京都府八幡市	三川合流昆虫全般（K）
5月11日	兵庫県三田市有馬富士公園	ハチ類（M）
5月12～13日	京都府舞鶴市	昆虫一般（M）
5月19日	兵庫県三田市有馬富士公園	ハチ類（M）
5月20日	大阪市大阪城公園	昆虫一般（M）
5月24日	兵庫県淡路市松帆の浦、徳島県鳴門市島田島瀬方鼻	アサギマダラ（K）
5月25日	箕面市	昆虫相調査（M）
6月２日	兵庫県三田市有馬富士公園	ハチ類（M）
6月2･3日	徳島県鳴門市島田島瀬方鼻、兵庫県南あわじ市湊、洲本市由良生石公園	アサギマダラ（K）
6月８日	高槻市二料	昆虫一般（M）
6月10日	箕面市	昆虫相調査（M）
6月13日	奈良県大台が原	カサアブラムシ（S）
6月22日	兵庫県三田市有馬富士公園	ハチ類（M）
6月30日	箕面市	昆虫相調査（M）
7月１日	箕面市	昆虫相調査（M）
7月８～11日	沖縄県石垣島	昆虫一般（M）
7月15日	大阪市大阪城公園	昆虫一般（M）
7月17日	高槻市中畑	カサアブラムシ（S）
7月17日	大津市大石	ヒメハルゼミ（S）
7月19日	大阪城公園・東大阪市枚岡公園	セミのぬけがら（S）
7月24～25日	山梨県三ツ峠山・御正体山	カサアブラムシ調査（S）
7月25日	茨木市竜仙峡	昆虫一般（M）
7月28～29日	滋賀県長浜市金糞岳	昆虫一般（M）
7月29日	旭区城北公園～淀川ワンド、淀川区西中島淀川河川敷	トンボ（K）
7月31日	東大阪市枚岡公園	セミのぬけがら（S）
8月３～５日	京都府舞鶴市	昆虫一般（M）
8月５日	奈良県御所市・大和葛城山	エゾゼミ（S）
8月12･14日	滋賀県大津市びわ湖バレイ	アサギマダラ（K）
8月21日	大阪府和泉市三国山	エゾゼミ（S）
9月２日	西区靭公園	セミのぬけがら（S,M）
9月７日	天王寺公園、大阪城公園	セミのぬけがら（S）
9月９・17日	大阪城公園	鳴く虫（S）
9月12・13日	近江八幡市宮が浜～伊吹山～彦根市	昆虫一般・化石（S）
9月14日	大津市大石	昆虫一般（S）
9月20日	枚方市穂谷	昆虫一般（S）
9月24日	滋賀県湖南市三雲	昆虫一般（M）
9月27日	藤井寺市道明寺駅～石川－大和川合流点	バッタ（K）
9月30日	箕面市	昆虫相調査（M）
10月２～７日	青森県八甲田山・津軽・岩手県八幡平	カサアブラムシほか（S）
10月８日	藤井寺市道明寺駅～石川－大和川合流点	バッタ（K・M）
10月10・14日	交野市私市駅～くろんど園地～河内森駅	トンボ（K）
10月18・19日	彦根市	昆虫化石（S）
10月22～25日	北海道・道北地方	昆虫化石ほか（S）
10月10～12日	富山県立山・福井県芦原市ほか	カサアブラムシ（S）
11月11日	箕面市	昆虫相調査（M）
11月19～22日	静岡県沼津市・神奈川県茅ヶ崎市・千葉県成田市	カサアブラムシ（S）
12月１日	神戸市北区	カサアブラムシ（S）
12月３日	高槻市中畑	カサアブラムシ（S）
12月５・26日	奈良公園	カサアブラムシ（S）
１月４～７日	広島市・高知県土佐山田村・徳島県つるぎ町など	カサアブラムシ（S）
１月９日	高槻市・京都市	カサアブラムシ（S）
１月13日	和歌山県高野山	カサアブラムシ（S）
１月23日	神戸市北区	カサアブラムシ（S）
１月24日	奈良市若草山	カサアブラムシ（S）
２月５日	神戸市北区	カサアブラムシ（S）
２月６日	高槻市中畑	カサアブラムシ（S）
２月11日	奈良市若草山	カサアブラムシ（S）
２月25日	神戸市北区	カサアブラムシ（S）
３月２日	京都市北区	カサアブラムシ（S）
３月３日	奈良県大和郡山市	昆虫一般（M）

3月5日	滋賀県高島市	琵琶湖畔の昆虫（S）
3月23日	箕面市	昆虫相調査（M）

■植物研究室

調査研究の他，野外観察会の機会等を利用した資料収集のうち，以下に主なものを記す．担当学芸員は，佐久間…SD，内貴…N，志賀…STと略記する．

4月3日	大阪府大阪市平野区、河内長野市、堺市	植物一般（N・ST）
4月6日	大阪府柏原市大阪教育大学	植物一般（N・ST）
4月17日	大阪市西淀川区	植物一般（ST）
4月18日	大阪府高槻市	植物一般（SD・N・ST）
4月21日	大阪市西淀川区	植物一般（ST）
5月8日	京都府八幡市	植物一般（ST）
5月13日	京都府八幡市	植物一般（ST）
5月17日	京都府京田辺市	植物一般（ST）
5月20日	京都府京田辺市	植物一般（ST）
6月8日	大阪府高槻市	植物一般（ST）
6月14日	大阪府茨木市	水生植物（ST）
6月15日	大阪市淀川区～西淀川区	植物一般（ST）
6月28日	京都府京都市	水生植物（ST）
7月1日	大阪市淀川区～西淀川区	植物一般（ST）
7月16日	京都府京都市	水生植物（ST）
9月4日	大阪市旭区	水生植物（ST）
9月10－15日	群馬県・栃木県	水生植物（ST）
9月20日	大阪府枚方市	植物一般（ST）
10月6日	大阪府枚方市	水生植物（ST）
10月7日	大阪府枚方市	水生植物（ST）
10月15日	大阪府貝塚市	植物一般（ST）
10月18日	大阪府寝屋川市・枚方市	水生植物（ST）
11月2日	兵庫県三田市・小野市	水生植物（ST）
11月5日	大阪府高槻市	水生植物（ST）
11月29日	大阪府豊能町	植物一般（ST）
12月3日	京都府京都市・枚方市・守口市・大阪市旭区	水生植物（ST）
12月5－6日	群馬県・栃木県	水生植物（ST）
12月18日	滋賀県大津市・草津市	水生植物（ST）
1月20日	京都府京都市・枚方市・守口市・大阪市旭区	水生植物（ST）
2月2日	滋賀県大津市・草津市	ミズヒマワリ（ST）
2月10日	滋賀県大津市・草津市	ミズヒマワリ（ST）
2月22日	滋賀県大津市・草津市	ミズヒマワリ（ST）
2月24日	京都府京都市・枚方市・守口市・大阪市旭区	水生植物（ST）
2月29日	大阪府豊能町・箕面市・寝屋川市	植物一般（ST）
3月12日	京都府京田辺市	植物一般（ST）
3月15日	京都府京都市・枚方市・守口市・大阪市旭区	水生植物（ST）

■地史研究室

担当者名樽野…T，川端…K，塚腰…Gと略記する．

5月10・11日	岐阜県多治見市	東海層群植物化石（G）
5月16日	愛媛県大洲・内子盆地下部一中部更新統	植物化石（G）
6月8日	高槻市二料	丹波帯石灰岩（K）
9月12・13日	北海道夕張市・三笠市	蝦夷層群放散虫化石試料・岩石（K）
9月18・24日	湖南市野洲川古	琵琶湖層群植物化石（G）
11月23日	和泉市	大阪層群植物化石（G）
3月3日	熊本県八代市・東陽村	中生代放散虫化石・岩石（K）

■第四紀研究室

担当学芸員名は石井久夫…IH，石井陽子…IY，中条武司…Nと略記する．

4月3～5日	熊本県上天草市・天草市・宇城市	現生貝類(IH)
4月5日	熊本県天草市御所浦町	白亜紀軟体動物化石(N)
5月3～6日	熊本県上天草市・天草市・宇城市	現生貝類(IH)
5月6日	熊本県天草市御所浦町	白亜紀軟体動物化石(N)
5月16日	松阪市松名瀬海岸	現生貝類(IH)
6月28日・7月16日	京都市（疏水）	現生貝類(IH)
7月21日・9月4日・23日	大阪市旭区淀川	現生貝類(IH)
8月8日	長崎県五島市玉之浦町	海浜砂(N)
9月11日	北海道石狩市浜町	海浜砂(N)
9月12-13日	北海道帯広市	第四紀軟体動物化石および植物化石(N)
10月29日	大阪府茨木市・箕面市	大阪層群火山灰試料(IY)
11月8・9日	佐賀市有明海・福岡市和白干潟	

現生貝類(IH)
11月21日　大阪府和泉市・堺市
大阪層群火山灰試料(IY)
11月27日・２月29日
亀岡市・能勢町　現生貝類(IH)
12月23日　大阪府岸和田市・和泉市
大阪層群火山灰試料(IY)
１月12日　大阪府吹田市　大阪層群火山灰試料(IY)
１月19日　大阪府熊取町・岸和田市
大阪層群火山灰試料(IY)
１月21・28日　大阪府岸和田市
ボーリング試料より分析用試料(IY)
１月26日　大阪府吹田市　大阪層群火山灰試料(IY)
２月16・24日　大阪府和泉市　大阪層群火山灰試料(IY)
３月22～25日・28～30日
長野県野尻湖　現生貝類(IH)
３月26・27日　大阪府吹田市
アズキ火山灰層剥ぎ取り試料（IY）
３月30日　奈良県香芝市　ガーネット入り川砂（IY）

Ⅲ．業務委託による収集

業 務 名：淀川産プランクトン（二枚貝グロキディウム幼生）調査業務
業務概要：淀川のワンドにおいて、ワンド内部とそれに隣接する本流域に生息する魚類を採集し、それらに付着しているグロキディウム幼生を精査するとともに、ワンドの二枚貝類相、魚類相の基礎資料を得る。
調査水域：淀川城北ワンドおよび赤川ワンド
調査時期：2007年4月～10月

Ⅳ．資料数

■動物研究室（平成19年度末）

海綿動物	123
刺胞動物・有櫛動物	674
扁形・紐形動物	299
触手動物	135
環形動物	5,424
甲殻類	12,138
軟体動物	28,379
棘皮動物	2,506
原索動物	446
その他無脊椎動物	812
魚類	33,803
両生類	21,526
爬虫類	7,673
鳥類	6,301
哺乳類	1,695
（計）	121,934

■昆虫研究室（未登録標本を含む）

（平成19年度末時点）

日本産		
Plecoptera	カワゲラ目	441
Ephemeroptera	カゲロウ目	10,152
Odonata	トンボ目	17,740
Mantodea	カマキリ目	385
Orthoptera	直翅目	11,734
Phasmida	ナナフシ目	452
Dermaptera	ハサミムシ目	511
Grylloblattodea	ガロアムシ目	98
Blattodea	ゴキブリ目	473
Isoptera	シロアリ目	92
Embioptera	シロアリモドキ目	25
Psocoptera	チャタテムシ目	335
Thysanoptera	アザミウマ目	24
Homoptera	同翅類（セミなど）	13,749
Heteroptera	異翅類（カメムシなど）	28,242
Neuroptera	脈翅目	1,489
Mecoptera	シリアゲムシ目	1,652
Trichoptera	トビケラ目	2,164
Heterocera	蛾（ガ）	31,849
Rhopalocera	蝶（チョウ）	60,191
Coleoptera	甲虫目	281,284
Diptera	ハエ目	43,559
Hymenoptera	ハチ目	43,210
その他の昆虫（各目）		16,974
クモなど		16,396
（計）		583,221

外国産	
蝶（チョウ）	81,846
蛾（ガ）	7,725
膜翅目（ハチ）	4,940
双翅目（ハエ）	3,123
甲虫	123,137
脈翅目（ウスバカゲロウなど）	51
同翅類（セミなど）	5,998
異翅類（カメムシなど）	2,034
直翅型昆虫	3,206
トンボ	1,298
カワゲラ	66
その他の昆虫（各目）	3,116
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション（日本産含む）	12,439
韓国産昆虫コレクション（西川・桂・冨永氏）	1,506
アフガニスタンの昆虫（有田豊氏他）	6,143
クモなど	1,576
（計）	262,904

■**植物研究室**（平成19年度末，未登録標本を含む）

種子・シダ植物サク葉標本	252,038
蘚類標本	35,920
苔類標本	23,230
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	6,870
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
（計）	340,245

■**地史研究室**

岩石	1,275
鉱物	2,513
脊椎動物化石	1,515
古生代無脊椎動物化石	1,370
中生代無脊椎動物化石	3,090
有孔虫等微化石プレパラート	17,841
放散虫化石	135
古生代植物化石	185
中生代植物化石	367
第三紀植物化石	3,741
（計）	32,032

■第四紀研究室（登録済標本数）平成19年度末

人類遺物	29点
植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941種
現生シダ植物胞子	362種
無脊椎動物化石点	5,564点
大阪市内ボーリング資料	1,583点
（計）	40,080点（件・種）

Ⅴ．自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センタに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への応対に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。そのような条件の中でも、コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応えている。

平成９年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成19年度(2007年度)も、新しく受け入れたものについて引き続きおこなっているが、一部は翌年度に持ち越された。

平成19年度中にデータ入力をおこなった電子出版物を含む図書は、50部で、平成19年度末現在の入力済み収蔵数は12,060部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成19年度に2,682冊、平成19年度末現在の累計151,479冊である。

１．個人・機関からの受贈(登録済みの分のみ。交換分は

除く、敬称略)

●個人：萩原博光、Capitan Bavastro

●民間団体、出版社、企業など：高幡不動尊

●政府機関及び自治体および関連団体など：(財) 日本科学技術振興財団、埼玉県

２．購入等によるもの

●図書購入費による購入（登録済みの分のみ）

平成19年度　　27冊

●消耗品費による購入

国内雑誌　科学など　9誌

外国雑誌　Copeiaなど8誌

［平成19年度購入雑誌］

国内：科学、遺伝、生物科学、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋、岩鉱。

外国：Copeia, Curator, Taxon, Evolution, Pacific Science, Systematic Biology, Geological Magazine, Journal of Paleontology

●学会への加入による収集

16学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会(日本応用動物昆虫学会誌、Applied Entomology and Zoology)

日本動物学会(動物学雑誌)

日本生態学会(日本生態学会誌)

日本生物地理学会(日本生物地理学会会報)

日本衛生動物学会(衛生動物)

日本魚類学会(魚類学雑誌)

日本植物学会(Journal of Plant Research)

日本遺伝学会(遺伝学雑誌)

日本藻類学会(藻類)

日本陸水学会(陸水学雑誌)

日本地質学会(地質学雑誌)

日本第四紀学会(第四紀研究)

日本古生物学会(Paleontological Research)

日本地学研究会(地学研究)

日本博物館協会(博物館研究)

全国科学博物館協議会(全科協ニュース)

国際トンボ学会(ODONATOLOGICA)

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

３．文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行(当館編集)Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行なっており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。平成19年度に交換・寄贈により入手した逐次刊行物・調査報告書等は、2,682冊である。

■研究報告など出版物の配布

2007年度の配布は以下の通り。発送が遅延した昨年度の分も同時に発送した。

	国　内		国　外	
研究報告60号61号	485ヶ所	477冊	446ヶ所	449冊
自然史研究	３巻５号、３巻６号			
	358ヶ所	365冊	190ヶ所	193冊
収蔵資料目録	第35集、第37集			
	240ヶ所	247冊	55ヶ所	56冊
展示解説　第35回、36回特別展解説書、ミニガイド22				
	269ヶ所	277冊		
館報　28-31号	12ヶ所	12部	645ヶ所	653冊

逓送便による複数の部数は数えていない。

展　覧　事　業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列が、これを補っている。平成13年４月に「花と緑と自然の情報センター（略称；情報センター）」がオープンしたことで、常設展示は、旧来の博物館建物（以下本館）だけでなく、情報センター１階にも増設され、特別展示は情報センター２階のネイチャーホールで開催されることとなった。

Ⅰ．常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的で身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。本館入口のオリエンテーション・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかかわってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということを、象徴的に展示してる。

第１展示室「身近な自然」と第２展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第３展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを、述べている。第４展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示している。締めくくりの第５展示室では、「生き物のくらし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活と、どのようにつながって、どんな環境でくらしているのかを、展示している。

情報センター１階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、従来「普及センター」に開設されていた学芸員による相談コーナーが、情報検索コーナーに隣接した場所にも設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

平成19年度には、下記の常設展示の更改・補修等を行った。

■旧特別展示室の第５展示室への改装

情報センター開設に引き続いて、本館常設展示の更新が計画されていたが、諸般の事情により、計画通りの実行に至っていない。本館の常設展示はかなりの部分が30年以上経過しており、劣化が著しく、展示手法の古さも目立っている。また「大阪の自然誌」展示室の展示内容は、本館の展示更新と一体の計画で検討されたため、現状ではその一部が本館展示室の内容と重複しており、早急な対策を必要としている。平成17年度から、当初計画を見直した展示案に基づき、一部展示室の更新を行ってきた。

平成19年度には、18年度に引き続き、旧第4展示室ならびに特別展示室を改修して、新しく第５展示室とする展示更新を行い完成させた。本展示室は常設展示の締めくくりであり、「生き物のくらし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活と、どのようにつながって、どんな環境でくらしているのかを、展示している。これまであまり例のない「生態学」の展示であり，視覚的、体感的にとらえられるよう、また、子どもたちがゲーム感覚で自然を理解できるよう、展示手法に工夫を凝らしている。

Ⅱ．特別展

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、開催してきた。13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。

(1) 当館が主催した特別展

■第36回特別展「世界一のセミ展」

セミは大きな音で鳴くことから、私たちに最も身近な昆虫のひとつで、短歌・俳句にもしばしば詠まれるなど、夏の風物詩となっている。大阪では昔に比べ、「クマゼミが増えた」と誰もが感じており、温暖化・都市化などの環境

変化に伴ったものではないかと考えられている。また、セミ類は幼虫期間が非常に長いことが知られているが、土の中でどのように過ごし、どのようなサイクルで成虫が発生しているのかなど、これまで未知のままであった。

博物館友の会などによる市民参加型の調査や、大阪市立大学研究グループとの共同研究を通し、このような身近な謎の解明に積極的に取り組んできた成果を、標本、模型、ジオラマなども交えて紹介した。

●**会　期**：平成19年7月7日（土）～9月2日（日）

●**会　場**：大阪市立自然史博物館　ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）

●**主　催**：大阪市立自然史博物館、特定非営利活動法人大阪自然史センター、大阪市立自然史博物館友の会、大阪市立大学都市問題研究「市民と共にさぐる大阪のセミの謎」研究グループ

●**後　援**：大阪府、大阪府教育委員会、公立大学法人大阪市立大学

●**協　力**：日本セミの会

●**入場料**：大人400円、高校生・大学生300円（30人以上団体割引あり）。本館（常設展）入館料（同300円、200円）とのセット料金は、同600円、400円。中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方、大阪市内在住の65歳以上の方は無料。

●**展示点数**：海外産や模型などを含め約200種1,500点。

●**展示構成**

第１部　大阪のセミ、いまむかし
第２部　セミの一生
第３部　世界のセミ
第４部　日本のセミ
第５部　温暖化・都市化とセミ
第６部身近でお手軽セミしらべ

図１．特別展「世界一のセミ展」のようす

関連行事：

自然史オープンセミナー

「セミのぬけがらから環境をはかろう」

日　時：７月７日（土）午後3時～午後4時30分
講　師：初宿成彦（自然史博物館　昆虫研究室　学芸員）
会　場：大阪市立自然史博物館講堂
参加者：64名

「大阪には何でこんなにクマゼミが多いんや？」

日　時：８月４日（土）午後3時～午後4時30分
講　師：初宿成彦（自然史博物館　昆虫研究室　学芸員）
会　場：大阪市立自然史博物館集会室
参加者：125名

室内実習「セミのぬけがらの見分け方」

日　時：７月８日（日）
午前10時～正午または午後２時～午後４時
場　所：大阪市立自然史博物館集会室
参加者：57名

テーマ別自然観察会

「ヒメハルゼミ」

日　時：７月14日（土）午後４時～午後７時
場　所：奈良市春日大社周辺
参加者：雨天中止

「温暖化とエゾゼミ」

日　時：８月５日（日）午前10時～午後３時
場　所：奈良県御所市・大和葛城山
参加者：41名

図２．セミ展入口

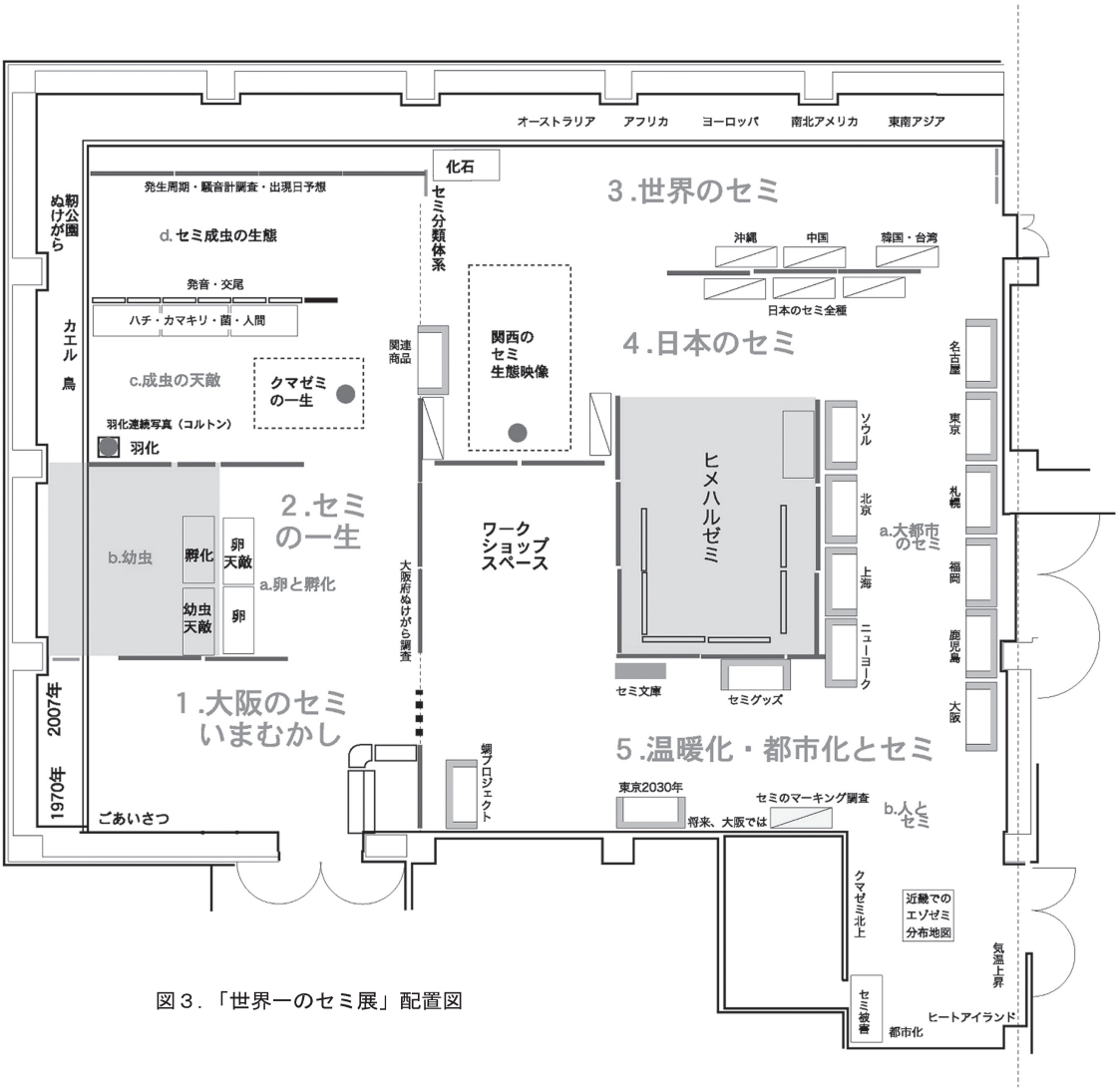

図３.「世界一のセミ展」配置図

長居植物園案内・昆虫編（7月）「セミの羽化のかんさつ」

日　時：７月23日（土）午後６時～午後８時

場　所：長居公園

参加者：230名

教員・観察会指導者向け支援プログラム「セミのぬけがらで環境学習」

日　時：７月31日（火）午前10時30分～午後3時頃

場　所：東大阪市枚岡公園

参加者：36名

特別展記念講演会「世界のセミ、日本のセミ」

日　時：８月19日（日）午後1時～午後４時

会　場：自然史博物館講堂

演題・講師：

「セミ研究の最前線」

講　師：林　正美（埼玉大学教育学部教授）

「セミの生態を数理する」

講　師：税所康正（日本セミの会／広島大学工学研究科准教授）

参加者：170名

図４．ワークショップ「セミはねもようのストラップ」

■セミのぬけがら同定会

日　時：８月25日（土）午前10時～午後４時
場　所：自然史博物館実習室
共　催：大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室
参加者：43名

■子ども向けワークショップ

セミの形、鳴き声、生活をテーマとした３種類の子ども向けワークショップを行った。

会　場：特別展会場（大阪市立自然史博物館ネイチャーホール）内の特設コーナー

「クマゼミすごろく」

開催日：７月15日(土)・16日(日)・21日(土)・22日(日)
有料参加者　283名　見学入場者193名　合計476名

「なき声だあれ？」

開催日：７月28日(土)・29日(日)・
８月11日(土)・12日(日)
有料参加者　165名　見学入場者92名　合計257名

「セミはねもようストラップ」

開催日：８月４日(土)・５日(日)・18日(土)・19日(日)・
25日(土)・26日(日)・９月１日(土)・２日(日)
有料参加者　621名　見学入場者354名　合計975名

(2) 当館が共催した特別展

本年度は上記の主催展のほか、下記のような当館共催の特別展をおこなった。

■「世界最大の翼竜展－恐竜時代の空の支配者－」

翼竜をテーマにした初めての展覧会であり、翼竜の進化と絶滅、生態、鳥類との棲み分け、飛行や歩行の秘密など、謎に包まれた翼竜の全体像を、中生代の世界を背景に紹介した。

●会期：平成19年９月15日～11月25日
●会場：自然史博物館特別展示室ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）
●主催：大阪市立自然史博物館・朝日新聞社・日刊スポーツ新聞社
●観覧料：大人1200円，高校・大学800円.
●展示内容
(1) 翼竜とは
(2) 空へ
(3) 大空の支配者
(4) 生態と進化
(5) 絶滅

■「ようこそ恐竜ラボへ！」－化石の謎をときあかす－

本特別展は、モンゴル科学アカデミーと恐竜共同調査を行っている林原自然科学博物館の全面的な協力を得て、「化石を発掘・調査し、新しい事実を見つけ、復元する」恐竜研究のプロセスに焦点をあて、内容を構成し、またその成果として、日本初公開を含む化石標本-大型植物食恐竜のサウロロフスやコリトサウルス、エドモントニアや肉食恐竜のバリオニクス、アロサウルスの全身骨格化石、デイノニクスの復元模型など-を展示し、あわせて、恐竜ラボトーク、好評な子どもワークショップ事業や恐竜パン作りなどの行事を展開した。

●会　期：平成20年３月15日～６月29日
●会　場：自然史博物館特別展示室ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）
●主　催：大阪市立自然史博物館・読売新聞社・NHK大阪放送局・NHKきんきメディアプラン
●観覧料：大人1100円，高校・大学600円.
●展示内容
(1) 恐竜ファンの部屋
(2) さぁ、恐竜をほりに行こう！
(3) さぁ、恐竜をしらべよう！

(4) よみがえった恐竜たち
(5) 体験コーナー　恐竜と歩こう

Ⅲ．特別陳列

特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行なっているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

■「大阪ふるさとの景色　のだふじ展」

かつて「吉野の桜　野田の藤」ともてはやされたように、大阪市福島区の野田はふじの名所として知られていた。大阪のふるさとの植物「のだふじ」（フジ）の特徴や生態、歴史、人々の想いなどを紹介。

会　期：４月28日（土）～５月６日（日）
会　場：花と緑と自然の情報センター内　ネイチャーホール

■パネル展「知られざる大和川の再生物語」

大和川を中心とする環境保全に関わる啓発パネルを展示した。

会　期：６月16日（土）～７月１日（日）
会　場：自然史博物館本館２階
共　催：国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所

■「カミキリムシとゲンゴロウの標本展　～北山昭コレクション～」

大阪府吹田市に在住し、2001年に41歳の若さで亡くなった北山昭氏の昆虫標本コレクション展を開催した。

期　間：７月14日（土）から９月17日（月祝）
会　場：自然史博物館本館２階イベントスペース

■「台湾産カミキリムシの標本展～鳥飼兵治コレクション」

台湾の自然や人々を深く愛した鳥飼兵治氏の標本コレクション展を開催した。

期　間：11月６日（火）～12月24日（月・祝）
会　場：自然史博物館本館２階イベントスペース

Ⅳ．館外での展示

市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、小規模な移動展示を行なっている。

■「出張！自然史博物館―世界のセミいろいろ―」

大阪市内の図書館で、特別展「世界一のセミ展」の関連した標本などの展示を行った。

・大阪市立中央図書館エントランスギャラリー
　会　期：５月19日（土）～６月７日（木）
・大阪市立住吉図書館
　会　期：８月１日（水）～31日（金）
・大阪市立住之江図書館
　会　期：８月１日（水）～30日（木）
・大阪市立生野図書館
　会　期：８月１日（水）～９月29日（日）
・大阪市立東淀川図書館
　会　期：８月１日（水）～30日（木）

関連して、以下の２会場で講演会を開催した。

「自然史博物館せみ・セミナー　大阪にはなんでクマゼミが多いんや！？」

・大阪市立中央図書館
　日　時：６月３日(日)　午後２時～午後３時30分
　参加者：123名
・大阪市立住吉図書館
　日　時：８月１日（水）午後２時～午後３時30分
　参加者：14名

■「のだふじ展」

春にネイチャーホールで実施した展覧会を、地元でも開催した。

会　期：12月３日より平成20年２月29日
会　場：福島区役所５階生涯学習コーナー
共　催：福島区役所･福島区歴史研究会･のだふじの会

Ⅴ．「たんけんクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成７年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成８年７月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。入館時、小

中学生に各１枚手渡し、５問中正解４問以上の場合には、絵はがきまたは昆虫カードを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

問題のカードは各５問で、当初は10種類であった。平成16年７月からは、あらたに低学年（小学１～３年生）向けに４種類のカードを制作し配布を始め、従来のカードは４年生～中学生向けとした。

さらに平成17年７月以降の土・日曜日には、専任スタッフによるカードの配布を開始した。その際カードに自由に書き込みできる用紙を添付し、毎月テーマを決めて参加者に絵を描いてもらい、その絵を館内に掲示するようにしている。

平成18年３月からは名称を「たんけんクイズ」にあらためるとともに、土・日曜日用に、裏面に書き込みスペースのあるカードを印刷し配布している。

Ⅵ. その他

(1) 開館時間延長

今年度10月より，３月から10月までの８ヶ月間の開館時間を30分延長し，午後５時閉館とした（入館は４時30分まで）．11月から２月までは，従来通り午後４時30分閉館（入館は４時まで）．

(2) 夏期開館時間延長

夏期の学校休業期間中の土・日曜日の開館時間を延長し、午後６時閉館（入館は５時30分まで）とした。

(3)「関西文化の日」の11月17日（土）ならびに18日（日）を無料開放とした。

普及教育事業

Ⅰ．各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行っている。今年度より「自然史オープンセミナー」は原則として３～４回のシリーズ企画とした。

観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からも講師を招いている（**印)、また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満たし、よりきめの細かい普及教育活動を行うために、ボランティアによる補助スタッフを野外行事に導入している（*印)。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事は、こうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

普及教育活動における今年度からの最も大きな変更点は、野外観察会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪自然史センターとの共催としたことである。自然史センターとの連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体勢の拡充、より充実した教材の提供を行うことが可能になり、行事の質の向上につながるものと考えている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。

■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

昨年に引き続き定員を超過している行事もあるが、自然史センターとの共催に伴い外部講師を増員したことにより、昨年より抽選率を緩和した行事もある。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑のいきもの」*，** 高槻市
４月22日　申込229名（当選229名）　雨天中止
「海べのしぜん」*，** 岬町長崎海岸
５月20日　申込418名（当選352名）　参加者243名
「ツバメのねぐら」** 奈良市
８月11日　申込173名（当選173名）　参加者 99名
「バッタのオリンピック」** 藤井寺市石川～大和川
10月８日　申込230名（当選230名）　雨天中止
「野草と木の実であそぼう」*，** 大阪府貝塚市
10月28日　申込151名（当選151名）　参加者 86名
「化石さがし」 泉佐野市
12月２日　申込445名（当選147名）　参加者119名
３月２日　申込121名（当選121名）　参加者 91名
「冬のカモ」 伊丹市昆陽池
１月20日　申込 68名（当選 68名）　参加者 46名
７テーマ６回実施　延べ参加者数684名

■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。今年度から淀川水系調査を開始したことから、淀川流域から行事実施場所を選定した。

「矢倉海岸」 大阪市西淀川区
４月21日　申込 52名（当選52名）　参加者 42名
「三川合流」 京都府八幡市、大山崎町、大阪府島本町
５月13日　申込 64名（当選64名）　参加者 49名
「二料」 高槻市二料
６月24日　申込111名（当選63名）　雨天中止
「生駒山北麓」 交野市東部～枚方市南部
９月30日　申込 49名（当選49名）　雨天中止
４テーマ２回実施　のべ参加者数91名

■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象をしぼって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事．学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。地域自然誌シリーズと同様、テーマ選定にあたっては淀川水系を意識した。

「ヨシ原で繁殖する鳥」 高槻市鵜殿
５月27日　申込39名（当選39名）　参加者19名
「モリアオガエルの卵塊さがし」 島本町
６月２日　申込72名（当選72名）　参加者40名
「川原の石ころ」 木津川
６月10日　申込67名（当選67名）　雨天中止
11月18日　申込60名（当選60名）　参加者34名

「淀川汽水域」　大阪市東淀川区・淀川区
　7月1日　申込53名（当選53名）　参加者43名
「カワガラス」　箕面市周辺
　7月8日　申込31名（当選31名）　参加者25名
「ヒメハルゼミ」＊　奈良市春日山
　7月14日　申込75名（当選75名）　雨天中止
「琵琶湖疎水」　京都市東山三条
　7月16日　申込27名（当選27名）　参加者20名
「初夏のキノコ」　北摂方面
　7月29日　申込55名（当選55名）　参加者39名
「温暖化とエゾゼミ」＊　奈良県御所市　大和葛城山
　8月5日　申込69名（当選69名）　参加者41名
「ヌートリアを探そう」　淀川
　9月9日　申込41名（当選41名）　参加者30名
「城北わんど」淀川城北わんど
　9月23日　申込74名（当選74名）　参加者55名
「カヤネズミの巣を探そう」　北摂方面
　10月8日　申込34名（当選34名）　雨天中止
「アカトンボ調べ」　交野市
　10月14日　申込49名（当選49名）　参加者37名
「雑木林のきのこ」　堺市方面
　10月14日　申込45名（当選45名）　参加者37名
「ヨシ原の冬鳥」　高槻市鵜殿
　12月2日　申込21名（当選21名）　参加者12名
「活断層を歩くシリーズ　六甲山」　六甲山
　3月16日　申込49名（当選49名）　参加者44名
16テーマ14回実施　のべ参加者数474名

■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行なえない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事．普及行事の中では上級向け。

「貝体新書」**
　4月22日　申込14名（当選14名）　参加者14名
「カビ」**
　6月3日　申込38名（当選38名）　参加者36名
「セミのぬけがらの見分け方」
　7月8日午前　申込36名（当選36名）　参加者30名
　7月8日午後　申込35名（当選35名）　参加者27名
「セミのぬけがら同定会」
　8月25日　参加者43名
「キノコの顕微鏡観察」
　1月6日　申込36名（当選36名）　参加者31名
「植物の維管束」＊
　2月10日　申込25名（当選25名）　参加者23名
「イカ・タコの体のつくりを調べよう」＊
　2月17日　申込15名（当選15名）　参加者14名
「魚のからだ」
　2月24日　申込10名（当選10名）　参加者 8名
「鳥の調査の勉強会」
　3月22日　申込22名（当選22名）　参加者22名
9回実施　のべ参加者数248名

■野外実習

野外における自然観察から得られたデータがどのような意味を持つのかなど、分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「昆虫相調査入門　第1回」　箕面方面
　4月15日　申込45名（当選25名）　参加者24名
「鳥の野外調査：公園で繁殖調査」　鶴見緑地
　6月3日　申込 9名（当選 9名）　参加者 5名
「昆虫相調査入門：第2回」　箕面方面
　6月30日　申込24名（当選24名）　参加者20名
　7月1日　申込26名（当選26名）　参加者17名
「昆虫相調査入門：第3回」　箕面方面
　9月30日　申込 6名（当選 6名）　参加者 5名
「昆虫相調査入門：第4回」　箕面方面
　3月23日　当日受付　参加者 5名
「大阪城のリスを探そう！」大阪城公園
　2月11日　当日受付　参加者90名
7回実施　のべ参加者数166名

■長居植物園案内

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察も取り入れて行っている。参加者が多いため、このような観察の手引きには,補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。

　4月28日＊　参加者68名
　5月26日＊　参加者60名
　6月23日＊　参加者51名

７月28日＊　参加者58名
８月25日＊　参加者37名
９月22日＊　参加者41名
10月27日＊　参加者35名
11月24日＊　参加者62名
12月22日＊　参加者21名
１月26日＊　参加者67名
２月23日＊　参加者48名
３月22日＊　参加者56名
12回実施　のべ参加者数604名

■長居植物園案内：動物・昆虫編

花と緑と自然の情報センターのオープンを機に、長居植物園の自然により親しんでもらおうとする行事。季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ることで、身の回りの自然をより知ってもらうねらいがある。原則として毎月第3土曜日に開催した。普及行事の中では初・中級向け。なお、今年度は６月に、１日で複数のテーマを短時間・複数回解説するスペシャル編の開催を試みた。

「春の渡り鳥１」＊　４月28日　参加者 41名
「春の渡り鳥２」＊　５月12日　参加者 49名
「植物園案内スペシャル」　６月16日　参加者150名
「セミの羽化のかんさつ」＊　７月21日　参加者230名
「夏の虫」　８月18日　参加者 58名
「初秋の虫たち」　９月８日　参加者 30名
「秋の渡り鳥」＊　10月20日　参加者 43名
「ダンゴムシ・ワラジムシ」＊　11月17日　参加者 25名
「冬ごしの虫」　12月８日　参加者 63名
「公園の冬鳥」＊　１月19日　参加者 49名
「公園の冬鳥２」＊　２月16日　参加者 25名
「花に来る鳥」＊　３月８日　参加者 60名
12回実施　のべ参加者数823名

■自然史オープンセミナー

当館学芸員が自らの調査・研究の成果をもとに自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。本年度から、特定のテーマを体系的に学習してもらうことを主眼として、３～４回のシリーズ企画とした。当館集会室で原則として毎月第１土曜日の午後３時～４時30分に開催。

４月７日「植物シリーズ１：植物の進化」塚腰　実　55名
５月５日「植物シリーズ２：植物の多様性と系統」内貴章世　54名
６月２日「植物シリーズ３：植物の生態」志賀　隆　44名
７月７日「セミのぬけがらから環境をはかろう」初宿成彦　64名
８月４日「大阪には何でこんなにクマゼミが多いんや？」初宿成彦 125名
９月１日「節足動物シリーズ１：節足動物の多様性」石田　惣　31名
10月６日「節足動物シリーズ２：昆虫の来た道」松本吏樹郎　39名
11月３日「節足動物シリーズ３：昆虫の繁栄」金沢　至　21名
12月１日「地学シリーズ１：岩石から何がわかる？」川端清司　33名
１月５日「地学シリーズ２：化石から何がわかる？」石井久夫　41名
２月２日「地学シリーズ３：地層から何がわかる？」中条武司　34名
３月１日「近畿東海地方でのゾウの化石の移り変わり」樽野博幸　40名
12回実施　のべ参加者数581名

■ジオラボ

普段はくわしく観察するチャンスが少ない化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう行事。当日の来館者に気軽に参加してもらえるよう、展示室内や展示室に隣接した場所で行っている。普及行事の中では初・中級向け。

４月14日「古代大阪人のゴミをより分ける」樽野博幸　40名
５月12日「貝化石の標本づくり」　石井久夫　50名
６月９日「水槽の中に地層を作る」＊　中条武司　50名
７月14日「川原の石ころ」　川端清司　27名
８月11日「ペットボトルで液状化を実験！」中条武司　38名
９月８日「270万年前の植物の化石」　塚腰　実　25名
10月13日「ミクロの化石」　川端清司　12名
11月10日「水槽の中に地層を作る」　中条武司　40名
12月８日「様々な植物化石」　塚腰　実　19名
１月12日「古代大阪人のゴミをより分ける」樽野博幸　20名
２月９日「貝殻のジグソーパズル」　石井久夫　14名

３月８日「様々な植物化石」　塚腰　実　30名

12回実施　のべ参加者数365名

■学芸員ミニトーク

博物館の研究員である学芸員が、各自の行っている研究や自然関係のトピックに関して展示室で短時間の話をした。話の後に質問をしてもらい、学芸員の存在やその研究内容を身近に感じていただくことを目的とした。なお、参加者数が減少傾向のため本行事は2月末で打ち切った。

46回実施　のべ参加者数約850名

■夏休み自由研究相談会*

夏休みに自然をテーマとした自由研究に取り組みたいが、方法がわからない、対象を決めかねている、といった悩みをもつ小・中・高校生に、学芸員がアドバイスを行う行事。できるだけ事前申込を呼びかけたが、当日参加も受付けた。2005年度より実施している。

日　時：７月22日（日）

場　所：自然史博物館　ミュージアムサービスセンター

相談件数：50件（事前申込21件、当日受付29件）

■標本同定会

児童生徒が夏休みに採集して作成した標本の名前を教える行事。自然物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。ただし、子供だけでなく、大人の参加者も多い。館外から多数の専門家の参加を得て、毎年８月下旬に実施している。本年度は８月26日に実施した。

同定件数：82件、参加者数：102名。

なお本事業の効果を高めるため、夏休みの始めに「夏休み自由研究相談会」（７月22日）も開催している。

■講演会・シンポジウム

特別展普及講演会以外にも、学会などと共催した講演会やシンポジウムを開催し、多数の市民に聴講いただき、好評を得た。

１．第24回地球科学講演会「最古の動物化石を探して-エディアカラ化石生物群の謎-」

日時：４月22日（日）

会場：自然史博物館 講堂

講師：大野照文氏（京都大学総合博物館教授）

参加者：166名

２．講演会「大阪ふるさとの木　のだふじ小史」

日時：５月４日（金）

会場：自然史博物館 ネイチャーホール

講師：佐久間大輔

藤　　三郎（野太藤保存会）

参加者：120名

３．「雑木林の自然史　ナラ林の生態系を考える」（関西自然保護機構との共催）

日時：６月24日（日）

会場：自然史博物館 講堂

プログラム：

「ナラ林の自然史と二次的自然の保護」　野嵜　玲児（神戸女学院大学環境・バイオサイエンス学科教授）

「最終氷期以降のナラ林の分布変遷－気候変動と人間活動の影響－」　高原　光（京都府立大学大学院農学研究科教授）

「菌類からみたナラ林」　佐久間大輔

「ナラ林を脅かすキクイムシ－ナラ林の大異変－」小林　正秀（京都府立大学大学院農学研究科特別講師）

「里山のナラ林に生息するミドリシジミ類」　小田切顕一（九州大学大学院比較社会文化研究院特別研究者）

総合討論（コーディネーター：野嵜玲児・佐久間大輔）

参加者：85名

４．「日本生物教育会・生物教育シンポジウム「リスクコミュニケーションと生物教育」

日時：８月18日（土）

会場：自然史博物館 講堂

プログラム：

「近年のライフサイエンス進歩の動向とリスクコミュニケーションの必要性」菱山　豊（文部科学省　研究振興局 ライフサイエンス課長）

「科学技術理解増進のためのリスクコミュニケーション教育」堅尾和夫（お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーションセンター　特任教授　元経済産業省基礎産業局 生物化学産業課長）

「学校におけるリスクコミュニケーション教育に求められるもの」刈間理介（東京大学　環境安全研究センター 准教授）

「大学におけるリスクコミュニケーション教育－生命倫理教育での実践を通して」中馬充子（西南学院大学人間科学部 教授）

参加者：30名

5．公開シンポジウム「里山の蝶を守る」
日時：10月７日（日）
会場：自然史博物館　講堂
プログラム：（　）内は報告者
１．近畿地方における蝶の生息状況
福井県（三上秀彦）、滋賀県（南　尊演）、京都府（小野克己）、奈良県（伊藤ふくお）、和歌山県（諏訪隆司）、大阪府（森地重博）、兵庫県（近藤伸一）
２．近畿地方における蝶の保全活動報告
１）大阪府能勢町におけるギフチョウ（能勢のギフチョウを守る会：天満和久）
２）兵庫県ハチ高原におけるウスイロヒョウモンモドキ（兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会：近藤伸一）
参加者：52名

6．公開シンポジウム「日本のカエルはどうなるの？　～カエルツボカビ症の衝撃と現在～」
日時：11月３日（土）
会場：自然史博物館 講堂
プログラム：
大阪のカエルの現状（和田　岳）
カエルツボカビ症とは（大阪市天王寺動植物公園事務所獣医師/日本野生動物医学会感染症対策委員長 高見一利）
ツボカビの正体にせまる（佐久間大輔・製品評価技術基盤機構 稲葉重樹）
今後ツボカビとどのように付き合うのか？（広島市安佐動物公園管理課長/日本動物園水族館協会両生爬虫類調整者 桑原一司）　総合討論
参加者：90名

7．第22回日本植生史学会大会公開シンポジウム「100万年、10万年、1万年スケールで見た大阪湾周辺の植生と環境の移り変わり」
日時：11月17日（土）
会場：自然史博物館 講堂
プログラム：
100万年の植生史-大阪湾海成粘土層と周辺地域の化石花粉群をもとに　大井信夫氏（ONP研究所）
10万年の植生史-琵琶湖、神吉盆地、黒田低地の花粉分析からみる気候変動に対する植生の応答　林竜馬氏（京都府立大学）
１万年の植生史-大阪湾岸地域の考古遺跡における古植生調査をもとに　辻本裕也氏（パリノ・サーヴェイ株式会社）
参加者：162名

8．日本変形菌研究会公開講演会
日時：２月24日（日）
会場：自然史博物館　講堂
プログラム：
「変形菌という生き物」松本淳（日本変形菌研究会、福井総合植物園）
「腐は富、奇は貴 － 聞いて納得、ウンの良い話」伊沢正名（糞土師、元自然写真家）
参加者：90名

9．公開シンポジウム「よみがえれ大阪の淡水魚」
日時：３月16日（日）
会場：自然史博物館 講堂
プログラム：
「趣旨説明」細谷和海
「大阪府の淡水魚類相」永井元一郎
「淀川ワンドの魚類相の変遷」河合典彦
「西限アジメドジョウ個体群の生息現況」平松和也
「ため池が守るニッポンバラタナゴ」加納義彦
「大阪の川をアユが上る」植野裕章
「大和川の魚類相-最近の調査から」波戸岡清峰
「総合討論」
参加者：81名

■ドキドキ子ども自然史ウォッチング

社会教育施設の無料解放により、博物館の利用機会の増した小中学生を対象に1995年から実施している。展示だけでなく、研究施設・収蔵施設などを含めた館内見学や実習により、博物館と自然史科学に親しむきっかけを作ることを目的としている。冬の小学生向けの「博物館たんけんコース」、夏の中学生向けの「学芸員体験コース」いずれも大阪市内の小中学校全生徒に配付される広報誌「タッチ」に掲載され、幅広い応募がある。収蔵施設などの見学の安全確保、実習の進行などには補助スタッフの協力におうところが大きい。

１．「博物館たんけんコース」＊

裏方（実験室や収蔵庫など）を中心とする館内見学。ふだんは見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやす

いものとして感じ、自然史についての興味を育てることをねらいとしている。本年度は１月13日，14日の２日間に渡って２回実施した。また、参加者の家族（保護者・未就学児）向けに、参加者とは別枠でバックヤードショートツアーを行った。

申込総数　79名

第１回　１月13日（日）　参加者39名

第２回　１月14日（月・祝）　参加者29名

延べ参加者数68名

保護者・未就学児参加数：

13日：保護者26名・未就学児3名

14日：保護者18名・未就学児4名

計51名

２．学芸員体験コース（中学生向け）＊

３日間連続の実習。学芸員があらかじめ用意した課題に基づき，学芸員と補助スタッフの指導のもと野外調査を行い，この結果をまとめ、展示として作成した．本年度は長居公園・植物園を調査場所とし、「クマムシ」、「植物の花粉」の２テーマのうち、どちらか好きな方に取り組んでもらった。

自分の目と手で調べた調査を展示として作成，発表することで，自然に対する探究心と科学的な観察力を育てることをねらいとしている．また学芸員の仕事と博物館の活動を体験的に理解してもらうプログラムとしても位置付けている．1998年からこの形式で実施している。

実施日：８月21～23日　申込８名（当選８名）参加者６名

■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談（1999年２月20日）を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒の行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始している。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2008年３月31日現在の部員数は64名.

●2007年度の活動内容

当初は、２ヶ月に１度のペースでの行事を、学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加した。その結果、2007年度は年間14回の行事を企画し、12回実施し、のべ参加者数は136名であった。

４月８日	「ミーティング」＊	33名
６月10日	「箕面」＊	18名
６月17日	「磯観察」＊	16名
７月25日	「竜仙峡」＊	6名
７月31日	「和歌川河口」＊	6名
８月１日	「博物館で標本実習」＊	16名
８月７日	「大和川・石川合流で川遊び」＊	8名
９月24日	「野洲川で化石探し」＊	10名
10月７日	「岩湧山」＊	9名
11月25日	「ドンヅルボーとサヌカイト」＊	5名
12月９日	「地層観察と化石採集」＊	7名
１月７日	「鵜殿」＊	雨天中止
２月10日	「淀川の冬鳥観察」＊	2名
３月20日	「岬町でアカガエル探し」＊	雨天中止

12回実施　のべ参加者数136名

■ビオトープ

バックヤードを利用して、ビオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか、継続的に調査をしている。ビオトープ作りに関心のある方、自然に興味のある方、体を動かすのが好きな方など、一緒に作業や調査をする方を募集して行った。原則的に毎月第２土曜日に実施した。

４月14日　39名

５月12日　33名

６月９日　1名

６月17日　41名

７月14日　雨天中止

８月18日　30名

９月８日　25名

10月13日　27名

11月10日　27名

12月８日　12名

１月12日　雨天中止
２月23日　19名
３月８日　41名
12回実施　のべ参加人数295名

Ⅱ．教員・観察会指導者向け支援プログラム

2002年度からの学校完全週５日制への移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みがはじまったことから、学校教育関係者による博物館など社会教育施設の利用が高まってきている。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員対象の「総合学習向け研修プログラム」を企画した。また、本年度からは対象を学校教員に限らず、教員を目指す大学生、自然観察指導員などに門戸を広げることとした。

５月13日「地衣類」**　申込15名（当選15名）参加者15名
６月３日「火山灰野外編１」申込10名（当選10名）
参加者 5名
６月23日「変形菌」**　申込41名（当選41名）参加者30名
７月８日「火山灰室内編１」
申込10名（当選10名）参加者 5名
７月31日「セミの抜けがらで環境学習」
当日受付　参加者36名
８月５日「火山灰室内編2」
申込12名（当選12名）参加者10名
８月９～10日「都市のコケ」
申込37名（当選37名）参加者36名
８月13日「無脊椎動物の解剖」（材料採集会）
申込38名（当選24名）参加者18名
８月17日「無脊椎動物の解剖」
申込38名（当選24名）参加者26名
８月23日「電子顕微鏡を使った観察・教材作成」
申込26名（当選26名）参加者 9名
９月29日「川原の石ころ」
申込 7名（当選 7名）参加者 6名
12月26日「どんぐりをたべる」
申込20名（当選20名）参加者18名
２月16日「スルメイカの解剖実習」
申込16名（当選16名）参加者13名
13回実施　のべ参加者数242名

Ⅲ．博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下の34名の学生を受け入れた。

一般実習コース

夏期：8月29日～9月2日
中川めぐみ（大阪女子大）、川喜多　愛・松岡暢宏（大阪府立大）、石田裕太郎（九州大）、上田智世（京都嵯峨芸術大）、高橋修平・藤本陽子（近畿大学）、　前田佳名子・中岡美緒・松尾咲子（奈良女子大）、佐々木智佳子・森山奈央子（京都橘大）、永岡一樹・馬場　孝（滋賀県立大）
秋期：10月24日～28日
岡治宏典（大阪府立大）、井上雄太・吉野仁美（近畿大）、藤井亜季（高知女子大）、武田知子（高知大）、村瀬　瞳・山路　崇・功刀　啓・児平哲彦・平井絢子（神戸大）、上中彩加（琉球大）、中岡正奈（大阪教育大）、藤田　徹（追手門学院大学）

普及教育専攻コース

夏期：8月12日、21日～23日、26日、
高堂友実（大阪府立大）、楠　佑香・長谷川洋美（奈良女子大）、宮東　照（福岡大）
冬期：12月22日～23日、13～14、27日
舞　沙織（大阪府立大）、家藤奈津子（大阪教育大）、関華絵（神戸大）

Ⅳ．各種研修

■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入している。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよき理解者である「友の会」に委託し、会員の中から募集を行なっている。行事実施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会 議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となってい

る。研修制度は当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めている。

Ⅴ．学校教育への対応

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問に関係なく、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の教員と情報交換をしながら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

１．体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ１名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM（Teachers-Museum）委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

２．連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

＜児童・生徒向け事業＞

・博物館マップ・ワークシートの配布：見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の２種類､ワークシートは小学校低学年・高学年、中学校の３種類がある。

・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）

当館を訪れた児童・生徒に対して､各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説､学芸員レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる｡実施に当たっては、先生からの要望を基に、教員と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施している。学芸員が館外に出向くことは、特別の場合を除いて行っていない（長居植物園は除く）。

2007年度は小学校５件、中学校５件、高校１件、専門学校・大学３件、合計14件の授業を行った。

2007年度の授業例：「植物のつくり」､「示準化石を走査電子顕微鏡で観察する」（テレビ会議システムを使った授業）､「栽培植物の歴史」､「昆虫の体」､「地震」など。

・学校からの自然に関する質問への対応

自然に関する質問に関しては常時対応しているが、学校のグループやクラスでの質問の場合には、事前に連絡してもらい、専門分野の学芸員が対応する体制を準備している。

・就業体験（インターンシップ）学生の受入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2007年度は、大阪府内の中学校７件（９人）を受け入れた。

＜教員向け事業＞

・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の教員に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。

下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

・資料の貸し出し

見学の事前学習、教員の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載されている。

2007年度は、博物館の出版物26件、ビデオ・ＣＤ－ＲＯＭ・ＤＶＤ86件､標本キット11件の貸し出しを行った。

・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目指している

大学生、総合学習に関わる活動をされている方、自然観察会の指導をされている方を対象に研修を行っている。2007年度は13回開催した（35～36ページ参照）。これら以外に、小中学校の教員を対象とした４件の教員研修を行った。

・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク（Teachers-Museum Network）

教員と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク（Teachers-Museum Network）をつくっている。92名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の教員に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を５回発行した。

＜その他＞

・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科、中学校の社会科（地理・歴史・公民）・理科（第２分野）の指導要領における単元と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。

Ⅵ. 普及活動に対する支援

「街なかの自然さがし～ビオトープを活用した地域の自然理解～」（企画No.19176）

助成金額：332,360円

期間：平成19年６月17日～平成20年３月８日

独立行政法人科学技術振興機構（JST）より19年度地域科学技術理解増進活動推進事業として助成を受け、ビオトープを利用した連続プログラムを実施した。継続的に身近な地域の自然の１年というテーマのもと、月に１度のペースで行事を継続的に行った。いろいろな分野をカバーできるように、学芸員に加え専門家や助手を招聘し、専門的な話を分かりやすく聞く機会やきめ細かいフォローを提供した。

Ⅶ. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は１～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

友の会では、博物館主催行事とは別に、47回の行事を企画し、46回（１回は雨天中止）実施した。延べ約2280名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員の交流が行われている。

■庶務報告

１．2007年度の友の会会員数は、1772名（１年会員1541名、４月入会55名、７月入会（半年会員）94名、10月入会46名、賛助会員36名）であった。2006年度は1770名。

※2007年度賛助会員（敬称略）浅川　彪、浅葉　清、永徳定、大宮文彦、加藤江理子、川端優太、小郷一三、小林ふさ子、志村研太郎、下原ミサヲ、初宿成彦、白川勝正、高橋明子、高橋弘志、瀧川久子、田辺一三、田村芙美子、塚本和義、永井敦子、西尾秀雄、西川喜朗、西田良司、西村静代、野村典子、樋 渡諦児、福西勝之、宮武頼夫、山下良寛、山本　章、和田　岳、浦野動物病院、（株）新興出版社啓林館、匿名４名

２．５回の定例評議員会を開催し、友の会の事業、庶務などについて審議した。

３．事業ワーキンググループで事業に関する内容について、11回の議論を行い、評議員会に諮った。

４．評議員として、三宅規子さんと、高田みちよさんが新たに加わった。

■事業報告

１．刊行・製作

(1) Nature Study誌53巻１号（通巻632号）～12号（通巻643号）を発行した。なお、Nature Study ９月号を20ページの特集号とした。また、２月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。

(2) 自然観察地図大阪府内版を4月14日より発売開始した。

(3) 行事用の友の会腕章を51枚製作した。

２．特別展「世界一のセミ展」およびその関連行事を大阪市立自然史博物館などと共催した。

3．バードフェスティバル（4月14日～15日）に参加し、シュロバッタ作製、ラスターバッジ作製、鳥類フィールドセミナーの成果発表、友の会の紹介、入会の案内を行った。
4．橿原市昆虫館の虫祭り（6月3日）に出展した。
5．行事を47回企画し、46回実施した（1回は雨天中止）。延べ約2280約（昨年度は1500名）の参加があった。以下に行事名と参加者数を記す。

(1) 友の会総会2007　1月28日（日）174名
(2) プロジェクトY淀川シリーズ
　4月1日（日）発足式　約70名
(3) 特別展「世界一のセミ展」関係（共催）
　7月6日（金）プレスプレビュー 75名
　7月7日（土）オープンセミナー 64名
　7月7日（土）友の会の夕べ 53名
　8月4日（日）オープンセミナー 125名
　8月19日（日）講演会 170名
　8月25日（日）セミの抜け殻同定会 43名
(4) 友の会合宿
・九州天草方面　5月3日（木）～5日（土）
　50名（＋世話役7名）
・日本海舞鶴方面　8月4日（土）～5日（日）
　46名（＋世話役7名）
(5) ナイトミュージアム　7月21日(土)～22日(日)　83名
(6) 昆虫スケッチ実習　6月17日(日)　31名
(7) 昆虫採集入門講座　7月15日(日)・16(月祝)　29名
(8) 靭公園のセミのぬけがら調査
　9月2日(日) 95名(世話役含む)
(9) 月例ハイキング

笹部	1月21日(日)	17名
三川合流	2月18日(日)	39名
城ケ崎海岸の海藻試食	3月21日(日)	82名
宇治川河川敷・向島	4月8日(日)	42名
木津川	5月20日(日)	32名
川久保	7月15日(日)	25名
貴船	8月19日(日)	29名
大阪城鳴く虫観察	9月17日(月・祝)	80名
ウミホタル	11月18日(日)	73名
多田銀山	12月16日(日)	35名

(10) 秋まつり　10月21日(日)　262名
(11) 鳥類フィールドセミナー（募集は4月のみ）
　1月6日(土)、1月27日(土)、2月24日(土)、
　4月22日(日)、4月30日(土・祝)、5月19日(土)、
　6月9日(土)、7月1日(日)、7月28日(土)、
　10月13日(土)、11月24日(土)　11回実施、 のべ259名
(12) 裏庭ビオトープの日
　2月24日(土)、3月25日(土)、4月14日(土)、
　5月12日(土)、6月17日(土)、8月18日(土)、
　9月8日(土)、10月13日(土)、11月10日(土)、
　12月8日(土)　10回実施、 のべ267名

■役員

会　　長　西川喜朗
副 会 長　谷田一三、山西良平
評 議 員　板本瑶子、梅原　徹、浦野信孝、桂孝次郎、河合正人、高田みちよ、田代　貢、中井紗織、永井敦子、鍋島靖信、西澤真樹子、花岡皆子、春沢圭太郎、堀田　満、道盛正樹、三宅規子、村井貴史、山下裕子、米澤里美
会計監査　加納康嗣、左木山祝一

広　報　事　業

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。

＜体制＞

定例では月１回、必要に応じて臨時に、学芸課（５名）と管理課（４名）の広報担当が集まり、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる。特別展の広報に関しては、特別展担当者も出席している。学芸課のメンバーの１名は普及活動全体を把握している学芸課の普及担当が毎年交代で参加している。

＜広報の種類（項目、媒体）＞

定期的な博物館行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館および大阪市、様々なメディアのホームページに情報を掲載している。
プレス発表	大阪市の情報公開室を通して市政記者クラブと大阪科学・大学記者クラブへ、特別展の開催、自然に関する発見情報などを発表している。
写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
大阪市内広報掲示板へのポスター掲示	特別展の際には応募し、当選すれば掲示している。B２縦またはB３横のポスターが750・1500部掲示できる。
交通広告	特別展では大阪市営地下鉄に吊り広告を掲出している。また大阪市営地下鉄の駅構内120ヶ所にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	博物館内：今月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センターの階段に大型看板を掲出し、特別展・本館への誘導を行っている。 公園内：博物館周辺にイベントの案内などを掲出している。掲示箇所：地下鉄長居駅出口、公園内の掲示板、花と緑と自然の情報センター出入り口の看板、長居公園地下駐車場。また、特別展の際にはのぼりを60本製作し、長居公園に掲出し、長居公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。
	最寄り駅：最寄り駅である地下鉄長居駅改札口付近に、毎月のイベントを掲出している。特別展の際には、地下鉄長居駅の他にJR長居駅、JR鶴ヶ丘駅の改札口付近に、Ｂ１ポスターを掲出している。
他施設の情報の提供	博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している。
ゆとりとみどり興局文化部での広報	文化部で作成された、８館・園のパンフレット（日・英・韓・中の４カ国語）を館内で配布している。また、文化部の広報担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。情報提供先：ＭＢＳラジオ、ＦＭCOCORO、読売テレビ、J-COM、大阪市動画サイト、携帯サイト、いちょう並木、OSAKA再発見マガジン、ミュージアムウィークス８onポスター
大阪市文化財協会内での共同広報	指定管理者である大阪市文化財協会と管理委託されている大阪歴史博物館・大阪市立自然史博物館の３施設で共同広報を行っている。各人が使用している電子メールのフッターへの相互の特別展他の情報書き込み、文化財協会の機関誌へのチラシの同封、大阪歴史博物館のロビーでの当館特別展の広報、大阪歴史博物館の特別展の館内掲示など。

＜広報先＞

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
学校・社会教育施設	作成したチラシ類や催し物案内を博物館施設、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市内の小中学校に対しては逓送便を活用している。特別展に関しては、日帰り圏内の博物館施設、大阪府内・大阪市内の図書館・社会教育施設に送付している。
地元小学校への広報	イベントの種類によっては、小学生をもつ地元の家庭への広報として、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。全生徒配布は、東住吉区・住吉区の２区の場合と東住吉区・住吉区・阿倍野区の３区、これに平野区を加えて４区の場合がある。
大阪府内の高校への広報	大阪府高校生物教育研究会と大阪府高校生物地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元町内会への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会（東住吉区、住吉区、阿倍野区）へ特別展のチラシの掲示依頼、町内会長、女性部長宛の内覧会招待状の配布依頼を行っている。
地元商店街への広報	地元の商店街や商店には、特別展ポスターの掲示依頼、割引券の配布依頼を行っている。

＜2007年度の広報状況＞

印刷物の発送先(学校以外)	件数：大阪市内195件、大阪府内244件、その他の府県247件。施設種類：博物館、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集会学習施設など
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしい自然観察会春・秋（40,000枚）、ワークショップ３回（100,000枚）、バードフェスティバル（70,000枚）、地球科学講演会（15,000枚）、音楽と自然の夕べ（45,000枚）、アートイベントネイチャーポール（45,000枚）、毎月の催し物案内（1,800枚）、特別展「世界一のセミ展」（ポスターB2 1,500枚、B3 6,500枚、チラシ55,000枚）、特別展「世界最大の翼竜展」（当館発送担当分　ポスターB2 1,900枚、B3 350枚、チラシ34,000枚）
情報提供しているメディア関係	約150社
特別展プレス発表の送信先	市政記者クラブ22社、大阪科学・大学記者クラブ17社、大阪市内区役所広報24区
テレビ・ラジオの取材（特別展以外）	４/６　NHK大阪放送局「関西ラジオワイド」中継のコーナー　第５展示室 ４/14　NHK大阪放送局「ウィークエンド関西」全国ネット　大阪バードフェスティバル ４/26　NHK大阪放送局「ぐるっと関西おひるまえ」関西ローカル　第５展示室 ５/14　山形さくらんぼテレビジョン「清流からの警告」絶滅種ミナミトヨ ５/18　J-COM9ch「Hometown大阪かわち　ええやん！」　第５展示室 ６/７　NHK・BS「にっぽん力検定」セミに関する問題 ６/17　サンテレビ「週末おでかけ情報サイト どこ行く？」館内全般 ７/４　FM802「大阪BBネット」　館内全般 ７/26　韓国・大邱文化放送「2007年大阪世界陸上」　館内全般 ７/31　CATV「OSAKAほっとタイム」ステゴサウルス ８/７　読売テレビ「ニューススクランブル」　道頓堀で見つかった鮎 ８/24　サンテレビ「ニュース・シグナル」　ヤマビル ９/８　NHK大阪放送局「関西のニュース」　長居植物園案内昆虫編「初秋の虫たち」 10/29　NHKエンタープライズ「昭和

	天皇と緑の交流シリーズ・三木茂」収蔵庫・植物園内 11/22　読売テレビ「ズームイン！SUPER」　大和川

＜特別展の広報＞

■特別展「世界一のセミ展」会期　７月７日～９月２日

プレス発表：５月10日

内覧会：７月６日

出席者：報道関係：大阪日日新聞社、神戸新聞社、NHK。地元町内会関係者49名、友の会会員19名、他。総数75名。

内容が扱われたメディア（新聞：７社、テレビ18社、ラジオ16社、雑誌社２社、区の広報誌７区、フリーペーパー13社、ホームページ：Yahooニュースの他、ブログで多数扱われた）

広報の特徴：近年、大阪ではセミの声がたいへんうるさくなっていることに気づいた多くの市民が、その原因に大きな関心を持っていた。「大阪にはなんでクマゼミが多いんや？！」という人目を引くキャッチコピーを掲げて、頻繁にメディアなどで取り上げられる地球温暖化に関連して、大阪でクマゼミが増加したことをテーマに取り上げた「世界一のセミ展」ポスターが街や地下鉄で話題となり、HPやブログなどの電子媒体にも掲載されるなどして、口コミ情報が広まった。

この展覧会は身近なセミに限ったものであったため内容も濃く、自然史博物館が過去13年間大阪市内靱公園でセミの抜け殻調査をしたデータや長居公園での音声調査の展示とともに、世界中の珍しいセミの標本が勢ぞろいしただけでなく、鳴き声や映像、ジオラマなどの目や耳に訴える展示も行われた。

また、観覧者の興味・関心を引くため、「セミの世界一」を強調する展示にこだわったことや、館内の通常の掲示のほかに情報センター一階から特別展会場に上がる階段の段差に設けたセミの絵の案内表示（図５）が子どもたちに人気があり、階段の前で記念撮影をする姿も見られた。

このような企画が、夏休み中の子どもたちのリピーターをよんで、その関心は両親・家族にも広がっていった。

さらに、このタイムリーな企画はメディアの関心も引き、全国の新聞社やテレビからの取材が集まった。

特に、サンケイ新聞夕刊のトップ面を飾った大阪のセミの紹介が、インターネットのYAHOOニュースでもトップに取り上げられ、全国ネットの歌番組のイントロでも紹介された。NHKでは夏の特別科学番組の制作のため、５月から大阪入りをし、取材を重ね、展覧会会期中の８月に放送、いっそう世間の話題を呼ぶことになった。

出版物でも、国内外のサイエンス雑誌、小学生向けの雑誌をはじめ、折込誌、広報誌、JR西日本や京阪鉄道の情報誌にも次々に掲載された。

それらの延長として、担当学芸員にはラジオやテレビの出演依頼が相次いだが、とりわけセミは夏の風物詩であり楽しい音が取れることからラジオでもまた大きな人気を集めた。

これらの展覧会プロデュースの成功が、マスメディアへの連鎖的広報拡大を通じて、記録的な集客数につながったといえる。

■特別展「世界最大の翼竜展」　会期９月15日～11月25日

プレス発表：８月７日、８月28日

内覧会：

９月13日（ケツァルコアトルスの組立）、取材メディア：読売ライフ，ポテトチップス，（株）ベイ・コミュニケーションズ，産経新聞社，テレビ大阪，朝日新聞社，日刊スポーツ新聞社。

９月14日記者内覧会　出席者：博物館招待者他67名，アスパラクラブ（朝日新聞社の招待者）494名

内容が扱われたメディア（新聞：７社、テレビ８社、ラジオ５社、雑誌社10社、区の広報誌１区、フリーペーパー12社、ホームページに掲載６社）

広報の特徴：朝日新聞社・日刊スポーツ新聞社と共催の展覧会。プレスプレビューでは組立式とオープン前日の２日間を設けたが、組立に取材が集中した。ポスターでは大阪の街中に世界最大の飛行する爬虫類であるケツァルコア

図５．セミの絵の案内表示

図６．シンボルマークのデザイン

トルスが紹介された。朝日新聞紙上でも毎日のように記事になった。子ども向けに音声ガイド終了後のわざカード配布、紙ひこうきの配布、人気アニメの恐竜の着ぐるみの登場を行った。ファミリー向けに、アスパラクラブと雑誌ぴあ読者を内覧会に招待した。絵はがきのプレゼント・カメラマンによる記念撮影・区民フェスティバルでのブース展開などを行った。

■特別展「ようこそ恐竜ラボへ」

会期　３月15日～6月29日

読売新聞社、NHKきんきメディアプランと共催で行った。広報の詳細は、平成20年度館報に掲載する。

＜シンボルマークの検討＞

ナウマンゾウのマークが当館のシンボルマークのように使用されていたが正式なものではなかった。また、微妙にデザインが異なるナウマンゾウが使用されていた。ナウマンゾウをシンボルマークと決定し、統一デザインを決めた（図６）。基本色はイエロー100・シアン100であるが、デザインに合わせて変更して使用することにした。「Osaka Museum of Natural History」、「大阪市立自然史博物館」、「しぜんしはくぶつかん」の文字は、使用する大きさ・掲載物の種類に応じて入れることにした。

刊　行　物

*は館外研究者．［No.　］は当館業績番号

■大阪市立自然史博物館研究報告（Bulletin of the Osaka Museum of Natural History）

第62号　2008年３月31日発行　80ページ

鈴木寿之*・瀬能　宏*・矢野維幾*・加藤昌一*・湯野川恭*：日本初記録のベニハゼ属３種．１-12．［No. 404］

道盛正樹*・佐久間大輔・木村全邦*・芦田喜治*：大阪府蘚苔類資料１　大阪城公園の蘚苔類．13-20．［No. 405］

Akiyo NAIKI：Breeding system in *Mussaenda shikokiana* (Rubiaceae)．21-26．［No. 406］

安井通宏*・初宿成彦・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ甲虫班：大和川水系のミズギワゴミムシ相と分布状況(特集：大和川の自然２として)．27-45．［No. 407］

初宿成彦・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ甲虫班：大和川水系のヒメドロムシ相および分布について(特集：大和川の自然2として)．47-64．［No. 408］

志賀　隆・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ水生植物班：大和川水系におけるカワヂシャと外来植物オオカワヂシャおよび雑種の分布(特集：大和川の自然2として)．65-74．［No. 409］

内貴章世・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ植物班：大和川水系におけるアリドオシ（アカネ科）の分布と染色体数(特集：大和川の自然２として)．75-80．［No. 410］

■自然史研究（SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History）

第3巻第7号　2008年2月5日発行　19ページ

藤井伸二*：大阪市立自然史博物館収蔵種子植物標本目録３ － モチノキ科 －　107-125．［No. 403］

■大阪市立自然史博物館収蔵資料目録

第40集　木村全邦*・佐久間大輔著「大阪府の蘚類－中島徳一郎蘚類コレクション－」（附中島コレクション目録CD）B5版．全66ページ．CD付．2008年３月31日発行．販価1500円．

■常設展解説書ミニガイド

No. 13「大阪のビルの石材―アーバンジオロジー入門―」改訂版　一般市民向け，Ａ５縦版，全21ページ（内カラー11ページ），2008年３月31日発行。 販価600円。

■特別展解説書

「世界のセミ200種」（第36回特別展「世界一のセミ展」解説書）

一般市民向け、Ｂ6縦版、全126ページ（内カラー図版53ページ）。2007年7月7日発行。販価1000円。

■大阪市立自然史博物館叢書シリーズの出版

自然史博物館と大阪自然史センターによる編著で、東海大学出版会から「大阪市立自然史博物館叢書シリーズ」の刊行を行った。これまで、展示解説書などの 形で博物館から出版していた自然史に関する出版物をより広く市民に届けようとした、一般出版社からの書籍の刊行という試みである。

2007年度は本シリーズの第１弾として、「大和川の自然」を2007年６月に、第２弾として「標本の作り方－自然を記録に残そう－」を2007年７月に出版した。2008年度には干潟、鳴く虫、哺乳類についての続刊も、編集作業や計画が進行中である。

連携（ネットワーク）

自然史博物館の5項目にわたるミッションと中期目標の中には以下のような項目がある。

〔ミッション３〕
地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努めます。
博物館活動のパートナーとなるＮＰＯやアマチュアを大切にし、自然愛好家の層を厚くしていきます。
（中期的目標）
・学校・地域との連携事業など市民との交流をＮＰＯと協働して進めます。
・アマチュア研究活動や、地域での自然体験活動を支援します。このために博物館も地域で実施する観察会を充実させます。
・地域の文化財行政・自然保護行政に積極的に貢献します。
〔ミッション４〕
他の機関との連携を進め、ノウハウの交流に努めます。
広域のネットワークや学術連携、協働でのプロモーションにより、より高度な博物館活動を目指します。
（中期的目標）
・西日本自然史系博物館ネットワークを中心とした他の博物館との連携・交流や共同事業を強めます。
・研究・教育において大学など高等教育機関との連携を進めます。
・大阪市の博物館群や長居植物園などとの連携を進めます。

いずれも、大阪市立自然史博物館が「地域の自然の情報拠点」として機能するために欠くことのできない項目であり、活連携によって多様な相乗効果を生んでいることを挙げることができる。

ミッション3に関連して、学校教育、地域、アマチュアとの連携の要になっているのが、大阪自然史センターとのパートナーシップである。特に今年は大阪バードフェスティバル2007を開催し、野鳥観察関連の団体などとの連携を強化した。学校教育面では今年度は大阪府高校生物教育研究会との自然史センター・博物館との連携を検討してきたところである。地域の文化財行政・自然保護行政への協力については2007年12月に関西自然保護機構と大阪自然史センターの合流が決まり、様々な活動を通じた公権の強化が図られることになる。

西日本自然史系博物館ネットワークとの連携はGBIF関連の自然誌情報発信事業を中心に、多様な展開を見せている。

研究・教育においての大学など高等教育機関との連携については、既に各種団体との協力の事例については普及教育事業に、共同研究については調査研究事業に記されている。大阪市の博物館群・長居植物園との連携についてもミュージアムウィークスの開催をはじめとして、多様な展開を見せている。これらの各項目については以下に改めて記載する。

高校生物研究会など

・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2007年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した。

西日本自然史系博物館ネットワーク

学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人である。設立４年目になり西日本の自然史系博物館のネットワークとして基盤が築かれつつある。当館も中核となる加盟館として連携し以下のような共同事業をおこなった。自然史系博物館における収蔵品データ整備事業・研究会、標本救済ネット事業、公開シンポジウム（カエルツボカビの後援、紀伊半島の野生生物の協力）、橿原市昆虫館事業の協力、フォーラム「自然史博物館常設展示のリニューアルを考える」、凍結乾燥技術交流会など。

大阪市の博物館群・植物園との連携

当館は大阪市美術館、歴史博物館、科学館などとともに今年度から「8on」と呼ばれる共同プロモーションを展開している。なかでも、平成19年９月７日（金）～９月30日（日）にわたって開催された「ミュージアムウィークス大阪2007」では、各館所蔵の「お宝」の紹介や、スタンプラリーなどの共　同プロモーションが行われ多数の参加者を得た。詳しくは大阪市ゆとりとみどり振興局による報告をご参照いただきたい
http://www.city.osaka.lg.jp/yutorito-midori/page/0000026109.html

同時に、各博物館でのアートイベントを開催し、多様な博物館の愉し見方を提案する「文化教育連携事業」が展開され、当館では大阪市音楽団との共同イベント「音楽と自然の夕べ」及び科学館との連携による「出張恐竜はり絵」、さらに「ポテトチップス」との協働による「みんなで創るネイチャーポール」を開催した。

また、小学校及び中学校向けの博物館美術館展示品を活用した学習促進のための教材として「博物館・美術館資料でかたるおおさか事典」、「博物館・美術館資料で語る大阪事典」の２冊を共同で執筆、刊行した。

長居植物園との連携では昨年度に引き続き、植物園からの依頼により園内ガイドシート（ワークシート）を作成した。

庶　　務

Ⅰ.沿　　革

昭和24年11月 8日－自然科学博物館開設準備委員会設置
昭和25年 4月 1日－自然科学博物館費予算に計上
昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下において展示開設
昭和27年 4月17日－博物館相当施設に指定
昭和27年 6月 2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
昭和27年 7月10日－博物館法第10条により登録(第2号)
昭和27年10月 1日－筒井嘉隆　館長に就任(39.7.4退任)
昭和32年 6月 7日－市立美術館より西区靭2丁目（元靭小学校校舎改造）に移転
昭和33年 1月13日－開館
昭和34年　　－新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
昭和39年　　－日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定（文部省）
昭和39年 8月 1日－筒井嘉隆　館長に就任(非常勤嘱託40.7.31退任)
昭和40年 8月 1日－千地万造　館長に就任(58.6.1退任)
昭和42年　　－大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
昭和44年 8月　　－新館建設のための基本構想審議委員会組織
昭和45年 4月　　－自然史博物館建設委員会組織
昭和47年 1月21日－自然史博物館建設工事着工
昭和48年 3月31日－自然史博物館建設工事竣工
昭和48年 4月 1日－旧館閉館
昭和48年 7月　　－新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年3月）
昭和49年 4月 1日－大阪市立自然史博物館条例公布
昭和49年 4月26日－自然史博物館開館式挙行
昭和49年 4月27日－開館
昭和51年 8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
昭和58年 7月 1日－千地万造館長に就任（非常勤嘱託61.3.31退任）
昭和59年 6月　　－常設展更新基本計画案策定
昭和60年 3月　　－常設展更新計画書策定
昭和61年 3月31日－常設展更新業務完成
昭和61年 4月 1日－新装開館
昭和61年 4月 1日－小川房人　館長に就任（兼務－2.3.31定年退職）
昭和61年 4月 1日－千地万造　顧問に就任(非常勤嘱託2.3.31退任)
平成 2年 4月 1日－小川房人　館長に就任(非常勤嘱託－3.3.31退任)
平成 2年度　　－文化施設整備構想調査
平成 3年 4月 1日－小川房人　顧問に就任（非常勤嘱託5.3.31退任）
柴田保彦　館長兼学芸課長に就任（4.3.31定年退職）
平成3・4年度　　－自然史博物館整備構想調査事業
21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
平成 4年 4月 1日－柴田保彦　館長に就任(非常勤嘱託7.3.31定年退職)
平成 7年 4月 1日－宮武頼夫　館長に就任（9.3.31定年退職）
平成 7年度　　－自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
平成 8年度　　－展示更新基本計画及び（仮称）花と緑と自然の情報センター設計検討
平成 9年 4月 1日－宮武頼夫　館長に就任（嘱託－10.3.31退職）
平成 9年度　　－展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
平成10年 4月 1日－那須孝悌　館長に就任（13.3.31定年退職）
平成10年12月　　－花と緑と自然の情報センター建築工事着工
平成13年 3月　　－花と緑と自然の情報センター竣工
平成13年 4月 1日－那須孝悌　館長に就任(非常勤嘱託)
平成13年 4月27日－花と緑と自然の情報センター開館式挙行
花と緑と自然の情報センター開館
平成17年 4月 1日－山西良平　館長に就任
平成18年 3月 1日－本館リニューアルオープン
平成18年 4月 1日－指定管理により(財)大阪市文化財協会が指定管理者となる
平成19年 3月24日－第5展示室一部ﾘﾆｭｰｱﾙオープン

Ⅱ. 組　　織

■職 員 数（平成19年4月1日現在）　計22名

館長(1)－副館長(1)
- ㈱管理課長
  - 庶務係長(1)
    - 非常勤嘱託職員(1)
    - 非常勤嘱託職員(2)
  - 係主査(1)
- 学芸課長(1)—主任学芸員(3)—学芸員(10)
  - 研究副主幹(1)

■職員名簿（平成19年4月1日現在）

職　　名	氏　　名	職　　種	氏　　名
館　　長	山西　良平	学 芸 課 長	樽野　博幸
副館長兼管理課長	黒崎　法男	研究副主幹	川端　清司
庶 務 係 長	木全　達男	主任学芸員	石井　久夫
係　主　査	美川　真一	〃	金沢　　至
嘱 託 職 員	日達　　昇	〃	波戸岡清峰
〃	三井　啓正	学芸員(地史)	塚腰　　実
〃	吉田　義昭	学芸員(昆虫)	初宿　成彦
		学芸員(動物)	和田　　岳
		学芸員(植物)	佐久間大輔
		学芸員(四紀)	石井　陽子
		学芸員(四紀)	中条　武司
		学芸員(昆虫)	松本吏樹郎
		学芸員(植物)	内貴　章世
		学芸員(動物)	石田　　惣
		学芸員(植物)	志賀　　隆

■人事異動

平成20年3月31日　樽野　博幸　　大阪市退職

Ⅲ. 庶務日誌

■平19年度　博物館関係者来訪

20. 1. 30　栃木県立博物館
　展示・施設見学
　広報及び教育普及活動の状況について

20. 2. 20　東京ガス㈱　環境エネルギー館
　学校団体等の受入について
　ワークショップ等のプログラムについて

20. 2. 27　岐阜県博物館
　館の運営理念及び組織について

■館長受嘱委員（～平成20年 3月31日）

全国科学博物館協議会　理事
　平成19年４月1日～平成20年3月31日
国土交通局近畿地方整備局
大阪湾岸道路西伸部環境影響評価技術検討委員会委員
　平成19年7月4日～平成20年3月31日
財団法人　河川環境管理財団　淀川環境委員会委員
　平成19年 4月 1日～平成20年 3月31日
財団法人　大阪科学技術センター　評議員
　平成19年 4月 1日～平成20年 3月31日
財団法人　大阪市文化財協会　理事
　平成19年 4月 1日～平成20年 3月31日
財団法人　日本博物館協会　理事
　平成18年 6月16日～平成19年 3月31日
財団法人　大阪２１世紀協会　評議員
　平成17年 6月23日～平成20年 2月13日
財団法人　日本博物館協会「博物館経営・運営の指標（ベンチマーク）づくり」委員
　平成19年 4月 1日～平成20年 3月31日
兵庫県立人と自然の博物館　協議会委員
　平成19年10月 8日～平成20年10月 7日
大阪府教育委員会事務局
大阪府文化財保護審議会委員
　平成20年 1月19日～平成22年 1月18日

Ⅳ. 決　　算

■平成17年度～平成19年度（人件費を除く）　　（単位　千円）

		事　　項	平成17年度 決 算	平成18年度 決 算	平成19年度 決 算
歳入	第1部	入館料ほか	19,067	16,527	26,897
		雑収（展示解説等売却代）	1,709	894	1,650
		国庫補助金	0	0	0
	第1部計		20,776	17,421	28,547
	第2部	府補助金	0	0	0
	第2部計		0	0	0
	第1部・第2部合計		20,776	17,421	28,547
歳出	第1部	常設展覧事業	2,206	1,896	1,532
		特別展覧事業	5,176	2,789	10,277
		調査研究事業	12,081	10,679	12,413
		資料収集保管事業	2,757	2,470	3,242
		普及教育事業	1,838	1,772	4,532
		充実活性化事業	2,556	2,874	2,170
		一般維持管理費	104,331	321,009	319,884
		小計	130,945	343,489	354,050
	第2部	館蔵品整備事業	0	0	0
		寄贈標本整理事業	0	0	0
		デジタルミュージアムの推進事業	0	0	0
		施設整備事業等	0	0	0
		収蔵庫設備整備事業	0	0	0
		小計	0	0	0
	第1部・第2部合計		130,945	343,489	354,050

Ⅴ．入館者数（平成19年度）

区分 / 月	有料					無料								計	開館日数
	個人		団体		有料計	団体					個人		無料計		
	大人	高・大	大人	高・大		幼・保育園	小学生	中学生	養護学校等	団体引率者	中学生以下	優待・招待その他			
(19) 4	6,323	217	280	214	7,034	77	4,569	20	5	275	6,312	2,811	14,069	21,103	26
5	8,321	289	251	163	9,024	2,124	13,607	523	106	1,943	6,304	3,431	28,038	37,062	28
6	4,351	197	62	0	4,610	566	1,699	44	61	198	3,533	1,394	7,495	12,105	26
7	4,950	602	113	0	5,665	378	14	18	0	42	5,807	1,526	7,785	13,450	26
8	7,951	2,170	47	0	10,168	165	0	36	50	34	10,286	2,072	12,643	22,811	28
9	6,547	343	45	85	7,020	37	283	7	29	68	6,782	1,988	9,194	16,214	26
10	5,315	173	143	79	5,710	1,757	11,302	858	70	975	4,725	1,894	21,581	27,291	26
11	3,804	200	64	70	4,138	2,403	1,834	1,251	92	452	5,365	4,111	15,508	19,646	26
12	1,380	231	65	0	1,676	126	566	32	34	82	1,644	522	3,006	4,682	23
(20) 1	2,144	274	141	0	2,559	148	111	95	0	27	2,042	545	2,968	5,527	23
2	2,365	102	9	74	2,550	364	255	399	6	83	2,137	819	4,063	6,613	25
3	6,510	227	117	75	6,929	1,531	94	428	16	222	6,240	2,055	10,586	17,515	26
計	59,961	5,025	1,337	760	67,083	9,676	34,334	3,711	469	4,401	61,177	23,168	136,936	204,019	309

■無料団体観覧内訳（平成19度）

	市内		市外		計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
幼稚園・保育所	113	6,331	62	3,345	175	9,676
小学校	139	12,640	221	21,694	360	34,334
中学校	34	1,702	35	2,009	69	3,711
養護学校・他	8	151	4	50	12	201
福祉施設	18	220	4	48	22	268
団体引率者		1,746		2,655	0	4,401
計	312	22,790	326	29,801	638	52,591

■特別展入館者数（平成10年度～平成19年度）

区分／月	個人 大人	個人 高・大	個人 優待・他無料	個人 中学生以下無料	団体 大人	団体 高・大	団体 中学生以下無料	合計	開催期間	日数	タイトル
10	8,821	2,449	4,314	12,312	48	195	6,219	34,358	8. 1～10.11	61	都市の自然
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8. 7～10.11	56	海をわたった蝶と蛾
12	7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7.20～ 9.24	58	干潟の自然
13	957	45	6,808	5,996	479	0	7,468	21,753	4.27～ 5.27	28	50周年だよ!標本集合!!
	4,668	172	6,669	1,917	0	0	0	13,426	6. 9～ 7.22	38	牧野富太郎と植物画展
	1,839	171	5,623	4,024	16	0	351	12,024	8. 4～ 9.24	45	レッドデータ生物
	2,848	224	7,120	4,097	331	0	4,841	19,461	10. 6～11.25	48	からだ・ふしぎ発見
	4,568	56	9,390	16,351	174	0	1,441	31,980	12. 8～ 1.20	31	親子で遊ぶ木とのふれあいワールド
	840	23	2,406	3,013	6	0	28	6,316	3.16～ 3.31	14	世界の蝶と甲虫
14	2,526	98	7,113	8,271	0	0	1,867	19,875	4.31～ 5.12	36	世界の蝶と甲虫
	1,354	244	2,857	5,203	33	38	149	9,878	7. 6～ 9. 1	50	化石からたどる植物の進化
	6,741	792	12,531	4,694	1,337	777	301	27,173	9.14～11. 4	45	目で見る「がん」展
15	4,028	228	5,995	8,252	1	30	8	18,542	7.19～ 8.31	50	日本鳥の巣図鑑
	4,686	37	7,776	23,784	66	0	1,902	38,251	11.29～ 2. 1	49	親子で遊ぶ木とのふれあいワールドパート2
16	1,593	76	5,463	3,240	0	0	4,101	14,473	4. 1～ 5.30	44	いきもの図鑑　牧野四子吉の世界
	2,052	90	3,752	9,844	0	0	72	15,810	7.17～ 9. 5	44	貝ーその魅力とふしぎ
17	959	87	3,361	9,038	0	0	0	13,445	7.16～ 9. 4	44	ナチュラリスト展
	103,419	5,203	81,640	28,497	280	51	24,834	243,924	10. 8～11.27	45	恐竜博
18	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～ 9.18	45	大和川展
19	8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7. 7～ 9. 2	51	世界一のセミ展
	31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
	8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3.15～ 6.29	14	ようこそ恐竜ラボへ！

Ⅵ. 施設の利用状況

■会議室　平成19年度　52件

年月日	団体名	人数
19. 4. 8	日本魚類学会	6
19. 4.21	ハチ研	8
19. 4.22	鳥類フィールドセミナー	41
19. 5. 3	野尻湖花粉グループ	8
19. 5. 4	野尻湖花粉グループ	8
19. 5. 5	野尻湖花粉グループ	10
19. 5.19	日本甲虫学会	10
19. 5.26	地団研	10
19. 6.14	アサギマダラ検討会	8
19. 6.23	ハチ研	10
19. 7.14	鳥の調査の勉強会	6
19. 8. 4	昆虫情報処理研究会	12
19. 8. 5	地団研	15
19. 8.11	日本鱗翅学会シンポジューム	20
19. 8.18	生物研究会	15
19. 8.25	植物園案内	6
19. 9.29	日本甲虫学会	10
19. 9. 7	日本鱗翅学会シンポジューム	15
19.10.14	日本甲虫学会	10
19.10.19	自然写真上達法	10
19.10.20	鳥の調査の勉強会	10
19.10.27	植物園案内	5
19.11. 3	ダーウインワークシート会議	3
19.11.10	感動探検隊	20
19.11.16	自然写真講習会	10
19.11.17	植生史学会	11

年月日	団体名	人数
19.11.18	植生史学会	11
19.11.29	日本甲虫学会	11
19.12. 1	鳥類フィールドセミナー	7
19.12. 7	日本甲虫学会	11
19.12.12	渡りチョウを調べる会	10
19.12.16	昆虫情報処理研究会	7
19.12.22	野尻湖花粉グループ	10
19.12.23	野尻湖花粉グループ	8
19.12.24	野尻湖花粉グループ	13
20. 1.12	鳥類フィールドセミナー	8
20. 1.13	ドキドキ小学生	8
20. 1.14	ドキドキ小学生	8
20. 1.20	野尻湖花粉グループ	18
20. 1.24	友の会写真コンテスト審査	68
20. 1.24	友の会	51
20. 1.24	友の会	3
20. 2. 3	近畿地学会	3
20. 2. 7	日本甲虫学会	3
20. 1.20	近畿植物同好会	50
20. 2.16	昆虫情報処理研究会	25
20. 2.17	大阪石友会	10
20. 3. 1	関西自然保護機構	20
20. 3.15	魚類自然史研究会	14
20. 3.16	魚類自然史研究会	15
20. 3.20	関西自然保護機構	17
20. 3.22	鳥の調査の勉強会	10

■**集会室**　平成19年度　　67件

年月日	団　体　名	人数
19. 4. 1	プロジェクトY2開会式	70
19. 4. 7	オープンセミナー 植物シリーズ１	55
19. 4. 8	甲虫学会	33
19. 4.21	大和川ネット	20
19. 4.27	友の会読書サークル	8
19. 4.28	昆虫情報処理研究会	18
19. 4.29	友の会	30
19. 5. 5	オープンセミナー　植物シリーズ２	54
19. 5.20	日本鱗翅学会近畿支部	15
19. 6. 2	オープンセミナー　植物シリーズ３	44
19. 6. 3	大阪自然環境保存協会	40
19. 6. 6	府立学校緑化研究会	22
19. 6. 9	鳥類フィールドセミナー	23
19. 6.10	大阪石友会	20
19. 6.17	友の会	28
19. 6.24	関西自然保護機構	14
19. 6.29	友の会読書サークル	10
19. 7. 4	安全研修	30
19. 7. 7	オープンセミナー	64
19. 7. 8	セミぬけがら実習	57
19. 7.26	奈良県RedData	5
19. 8. 2	博物館実習	3
19. 8.16	地団研	16
19. 8.17	クレオ大阪	30
19. 8.17	友の会読書サークル	6
19. 8.18	日本セミの会	18
19. 8.23	教員向け　　電子顕微鏡	9
19. 8.26	同定会	102
19. 9. 1	オープンセミナー	31
19. 9. 8	ビオトープ	25
19. 9.30	博物館実習	30
19.10. 6	オープンセミナー	39
19.10.13	鳥類フィールドセミナー	31
19.10.14	甲虫学会	39
19.10.19	友の会読書サークル	13
19.11. 3	オープンセミナー	21
19.11.15	近鉄文化サロン	10
19.11.20	近畿通信制高校教育研究会理科部会	14
19.11.22	住吉人権文化センター	40
19.12. 1	オープンセミナー　地学シリーズ１	33
19.12. 2	関西トンボ談話会	35
19.12. 9	甲虫学会	59
19.12.16	ワークショップ	25
19.12.21～23	博物館実習	4
19.12.22	友の会読書サークル	13
19.12.24	シダとコケ談話会	50
20. 1. 5	オープンセミナー　地学シリーズ１	41
20. 1. 5	博物館実習	4
20. 1.13～14	ドキドキ小学生	119
20.1.17	大阪コミニケーションアート専門学校	20
20.1.20	近畿植物同好会	50
20.1.26～27	友の会	100
20. 2. 2	オープンセミナー	34
20. 2. 3	関西トンボ談話会	25
20. 2. 5	シニア自然大学	43
20. 2. 9	鳥類フィールドセミナー	19
20. 2.11	大阪湾海洋生物	50
20. 2.17	西日本自然史系博物館ネットワーク	30
20. 2.22	友の会読書サークル	8
20. 2.23	ビオトープ	19
20. 2.24	日本変形菌研究会	50
20. 3. 1	オープンセミナー	40
20. 3. 2	近畿植物同好会	60
20. 3. 9	野尻湖友の会研究会	13
20. 3.15～16	魚類自然史	60
20. 3.22	甲虫学会	32
20. 3.30	関西トンボ談話会	29

■**実習室**　平成19年度　　91件

年月日	団　体　名	人数
19. 4. 7	なにわホネホネ団	17
19. 4. 8	ジュニア自然史クラブ	42
19. 4.22	実習　貝体新書	14
19. 4.30	鳥類フィールドセミナー	31
19. 5.11	なにわホネホネ団	12
19. 5.12	ビオトープ	33
19. 5.19	セミ掘り	7
19. 5.20	なにわホネホネ団	43
19. 5.26	植物園案内	6
19. 5.27	ソーティング	6
19. 6. 9	ビオトープ	4
19. 6.16	植物園案内スペシャル	10
19. 6.17	ビオトープ	41
19. 6.20	自然環境市民大学	33
19. 6.22	なにわホネホネ団	7
19. 6.23	植物園案内	4
19. 6.30	なにわホネホネ団	26
19. 7. 8	火山灰実習	5
19. 7.16	昆虫採集入門講座	20
19. 7.18	大阪シニア自然カレッジ	30
19. 7.24	なにわホネホネ団　和田	21
19. 7.25	千葉県博物館標本同定作業　石田	1
19. 7.28	植物園案内	7
19. 8. 1	ジュニア自然史クラブ　松本	21
19. 8. 4～ 5	教員研修　石井陽	10
19. 8. 9～10	教員コケ　佐久間	36
19. 8.12	ドキドキ中学生	12
19. 8.14～16	なにわホネホネ団　和田	55
19. 8.17	教員研修　解剖　石田	26
19. 8.18	ビオトープ　植物園案内　松本	30
19. 8.19	なにわホネホネ団　和田	16
19. 8.21	ドキドキ中学生	12
19. 8.24	生物教育研究員　川端	12
19. 8.25	ぬけがら同定会　初宿	43
19. 8.26	同定会	102
19.8.29～31	博物館実習	18
19. 9. 1～2	博物館実習	18
19. 9. 7～8	なにわホネホネ団　和田	24
19. 9.15	なにわホネホネ団　和田	20
19. 9.22	植物園案内	5
19. 9.24	プロジェクトY　フジツボ　山西	20
19.10. 6	なにわホネホネ団　和田	33
19.10. 7	山口貝類談話会	30
19.10.13	ビオトープ	27
19.10.14	プロジェクトY　フジツボ　山西	12

年月日	団　体　名		人数
19.10.21	友の会秋祭り		5
19.10.24～28	博物館実習		17
19.10.26	なにわホネホネ団	和田	3
19.10.30～31	パソコン端末	金沢	3
19.11. 4	なにわホネホネ団	和田	18
19.11.10	ビオトープ		27
19.11.16	なにわホネホネ団	和田	5
19.11.17～18	植生史学会	塚越	94
19.11.20	近畿通信制高校教育研究会理科部会		14
19.11.24	植物園案内		5
19.11.25	なにわホネホネ団	和田	25
19.11.30	標本写真撮影	波戸岡	3
19.12. 1	プロジェクトY　フジツボ	山西	14
19.12. 7	なにわホネホネ団	和田	5
19.12. 8	ビオトープ	志賀	12
19.12. 9	近畿植物同好会	内貴	10
19.12.16	ワークショップ	石田	25
19.12.22	植物園案内		5
19.12.23～25	なにわホネホネ団	和田	53
20. 1.13～14	ドキドキ小学生		119
20. 1.16	シニア自然大学	和田	30
20. 1.18	なにわホネホネ団	和田	6
20. 1.19	大阪自然環境保全協会	和田	30
20. 1.20	なにわホネホネ団	和田	21
20. 1.22	シニア自然大学	和田	30
20. 1.26	植物園案内		5
20. 1.29	シニア自然大学	和田	30
20. 2. 1	なにわホネホネ団	和田	4
20. 2. 2	鳥の調査の勉強会	和田	9
20. 2. 3	なにわホネホネ団	和田	10
20. 2. 9～10	室内実習　植物の移管束	塚越	23
20. 2.16～17	イカタコ教員	石田	13
20. 2.23	日本変形菌研究会		50
20. 2.24	魚のからだ	波戸岡	9
20. 2.29	標本同定	石田	2
20. 3. 1	アサギマダラを調べる会	金沢	29
20. 3. 2	鳥類フィールドセミナー	和田	26
20. 3. 8	ビオトープ	松本	41
20. 3. 9	大阪鳥類研究グループ	和田	19
20.3.11～12	WSボラ	石田	15
20. 3.14	なにわホネホネ団	和田	3
20. 3.15	ハチ研	松本	8
20. 3.16	双翅目談話会	松本	25
20. 3.20	ジュニア自然史クラブ		9
20. 3.23	なにわホネホネ団	和田	24
20. 3.28	ボラまつり	中条	25

■講堂　平成19年度　　20件

年月日	団　体　名		人数
19. 4. 7	市教委　生涯学習推進員研修		200
19. 4.15	大阪バードフェスティバル		320
19. 4.19	地球科学講演会		166
19. 6. 8	茨木市立郡小学校		90
19. 7. 7	オープンセミナー	初宿	64
19.7.15～16	世界陸上ボランティア業務説明会		600
19.7.27～29	世界陸上ボランティア業務説明会		900
19. 8. 4	オープンセミナー	初宿	125
19. 8.18	日本生物教育会		100
19.8.24～9.2	世界陸上開会式出演者控室		200
19. 9. 7	日本鱗翅学会	金沢	60
19.11. 3	公開シンポジューム「日本のカエルはどうなるの」		80
19.11.17	植生史学会公開シンポジューム		166
19.11.18	植生史学会		94
19.11.23	大阪府高校生物教育研究会		100
19.12. 9	甲虫学会	初宿	59
20. 1.27	友の会総会		220
20. 2. 2	エプソン　親と子のフォトサプリ		50
20.3.15～16	魚類自然史研究会	波戸岡	200
20. 3.23	恐竜ラボトーク	山西	250

■ネイチャーホール　平成19年度　　1件

年月日	団　体　名	人数
19. 4. 7～15	大阪バードフェスティバル	16000

Ⅶ. 施　設

自然史博物館本館

■ **所 在 地**　大阪市東住吉区長居公園1番23号

■ **敷地面積**　6,743.68㎡

■ **建築面積**　4,392.67㎡

■ **延床面積**　7,066.01㎡

■ **構　　造**　鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造
地下１階、地上３階

■ **主要各室面積・天井の高さ**

（展示用施設）	計 2,427.48㎡	
		（天井の高さ）
ナウマンホール	550.35㎡	11.00m
第１展示室	360.55㎡	3.30m
第２展示室	486.64㎡	7.20m
第３展示室	403.10㎡	4.70m
第５展示室	360.55㎡	4.20m
２階ギャラリー	266.29㎡	6.80m
（研究用施設）	計 1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m
生物実験室	49.20㎡	2.40m
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m
動物標本制作室	37.71㎡	2.40m
昆虫・植物標本制作室	各36.54㎡	2.40m
化石処理室	47.56㎡	2.40m
石工室	22.21㎡	2.70m
展示品製作室	28.05㎡	2.70m
第１収蔵庫	207.09㎡	3.00m
第２収蔵庫	310.08㎡	3.00m
第３収蔵庫	207.09㎡	3.00m
第４収蔵庫	310.08㎡	3.00m
書　　庫	100.30㎡	7.40m
編集記録室	36.54㎡	2.40m
（普及教育用施設）	計 604.27㎡	
講堂（映写室・控室含む）	319.09㎡	2.60m
		（平均）
ﾐｭｰｼﾞｱﾑｻｰﾋﾞｽｾﾝﾀｰ	93.30㎡	2.70m
集会室	95.12㎡	2.70m
実習室	96.76㎡	2.70m
（管理用施設）	計 907.49㎡	
館長室	36.54㎡	2.70m
副館長室	18.27㎡	2.70m
事務室	83.34㎡	2.70m
応接室	29.54㎡	2.70m
休憩室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
自家発電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤	28.05㎡	2.40m
（共通部分）	計 1,323.95㎡	
１階廊下	118.27㎡	2.70m
２階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2. 85m
エレベーターホール（荷物用）	123.16㎡	
ファンルーム（南・北側）	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
ﾅｳﾏﾝﾎｰﾙ ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ	7.00㎡	
倉　庫	106.56㎡	
１階ホール便所	76.26㎡	
２階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階　段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
	総計 7,066.01㎡	

■ **階数別面積**

地階……855.07㎡　３階……550.95㎡
１階……3,178.35㎡　屋階…… 76.93㎡
２階……2,404.71㎡

■ **各室定員**

講　堂…… 266人　集会室…… 48人
会議室…… 22人　実習室…… 31人
展示室（１階）415人　展示室（２階）400人
地　階…… 3人

■ **工　　期**　昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ **総事業費**　10億1,000万円

（建設工事費）　7億9,500万円
・本体工事（㈱竹中工務店）　4億9,200万円
・付帯工事　3億300万円
（設計監督委託料）　2,700万円
（その他）　3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費
ネットフェンス設置工事費等
（内部設備費）　1億5,000万円
・第１展示室ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ（㈱日展）　2,200万円
・第２展示室ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ（㈱乃村工芸社）　2,500万円

・第３展示室ディスプレイ（㈱丹青社）
2,100万円
・オリエンテーションホールディスプレイ
（㈱電電広告）　600万円
・展示品購入費　3,200万円
・庁用器具、調査、研究用機器、資料保管用物品等　4,400万円

■　**国庫補助金・起債**

・国庫補助金　3,000万円（47.10.13付交付決定）
・起　債　3億8,762万円（47. 8.25付交付決定）

花と緑と自然の情報センター

■　**所 在 地**　大阪市東住吉区長居公園1番23号
■　**敷地面積**　1,203.81㎡
■　**建築面積**　1,203.81㎡
■　**延床面積**　5,000.00㎡
■　**構　　造**　鉄骨鉄筋コンクリート造
地下１階、地上2階塔屋付建物

■　**主要各室面積・天井の高さ**

			（天井の高さ）
（展示用施設）	計	1,403.76㎡	
大阪の自然誌		638.82㎡	4.20m
ネイチャーホール		764.95㎡	7.00m
（研究用施設）	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場（１）		47.99㎡	4.00m
準備室兼置場（２）		68.34㎡	4.00m
冷蔵庫室		21.99㎡	5.00m
資料前処理室		20.14㎡	4.00m
一般収蔵庫		748.34㎡	5.00m
特別収蔵庫		688.22㎡	5.00m
液浸収蔵庫		323.48㎡	5.00m
前室（１）		36.80㎡	4.00m
前室（２）		16.20㎡	4.00m
（普及教育用施設）	計	256.08㎡	
自然の情報センター		111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m
実習室		105.75㎡	3.00m
（管理用施設）	計	937.36㎡	
総合監視センター		32.78㎡	5.60m
空調機械室		116.93㎡	6.50m
機械室		722.99㎡	5.60m
ＥＶ機械室		49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室		15.58㎡	3.00m
（共通部分）	計	431.3㎡	
地下１階廊下		28.74㎡	3.00m
１階廊下		48.30㎡	3.00m
１階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
２階渡り廊下		15.21㎡	3.00m
プロムナード		28.00㎡	5.00m
２階便所		57.02㎡	2.50m
ＥＶ室		47.52㎡	2.90m
トラックヤード		88.13㎡	
階　段		103.18㎡	
総　計		5,000.00㎡	

■　階数別面積
地階……2,754.07㎡
１階……1,203.81㎡
２階……　993.04㎡
３階……　49.08㎡

■　工　　期　平成10年12月～平成13年3月
■　総事業費　41億6,665万円
（建設工事費）　24億4,558万円
（設備工事費）　11億9,650万円
（設計監督委託料）　5,751万円
（外溝工事費他）　4億6,706万円

■　起債等
・起　債　34億7,477万3千円
・雑収（宝くじ協会）　3億6,001万7千円

○　大阪市立自然史博物館条例

制　　定　昭49. 4. 1　条例 39
最近改正　平17. 9.22　条例109

（設置）
第1条　大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。
（目的）
第2条　博物館は、自然史に関する科学について、資料を収集し、保管し、展示するとともに、その調査研究及び普及指導を行い、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とする。
（事業）
第3条　博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。
(1)　実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フイルム等（以下「博物館資料」という。）の収集、保管、展示及び閲覧
(2)　自然史に関する科学についての調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究
(3)　展覧会、講習会、実習会、研究集会等の開催及び指導
(4)　博物館資料に関する同定及び指導
(5)　博物館資料の貸出及び交換
(6)　他の博物館、学校、学会その他の関係機関との連絡及び協力
(7)　その他必要な事業
（休館日）
第4条　博物館の休館日は、次のとおりとする。
(1)　月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当るときは、その翌日）
(2)　12月28日から翌年1月4日まで
2　前項の規定にかかわらず、第16条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。
3　教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。
（供用時間）
第5条　博物館の供用時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。
2　前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。
この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第5条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第5条第2項の規定により読み替えられた第4条第2項」と読み替えるものとする。
（使用の許可）
第6条　博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。
（使用許可の制限）
第7条　次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。
(1)　公安又は風俗を害するおそれがあるとき
(2)　営利を目的とするとき
(3)　建物又は附属設備を損傷するおそれがあるとき
(4)　管理上支障があるとき
(5)　その他不適当と認めるとき
（使用許可の取消し等）
第8条　次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。
(1)　偽りその他不正の手段により第6条の許可を受けたとき
(2)　前条各号に定める事由が発生したとき
(3)　この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき
（入館の制限）
第9条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。
(1)　他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
(2)　建物、附属設備又は展示品を損傷するおそれがある者
(3)　他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
(4)　管理上必要な指示に従わない者
(5)　その他管理上支障があると認める者
（観覧料）
第10条　博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第22条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒は、この限りでない。

2　常設展示場の観覧料は、1人1回につき、次の表に掲げる金額の範囲内で教育委員会が定める。

区　　分	観覧料
高等学校、大学その他教育委員会の定める教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

3　特別展示室の観覧料は、1人1回につき、1,200円以内で教育委員会が定める。

（施設の使用及び使用料）

第11条　施設の使用の許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、1日につき、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内で教育委員会が定める額の使用料を納付しなければならない。

(1)　特別展示室　32,000円

(2)　講堂　17,000円

（附属設備の使用）

第12条　使用者は、教育委員会が定める使用料を納付して附属設備を使用することができる。

（使用料の納付の時期）

第13条　使用料は、前納しなければならない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、後納することができる。

（観覧料等の減免）

第14条　教育委員会は公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、観覧料又は使用料を減免することができる。

（観覧料等の還付）

第15条　既納の観覧料又は使用料は還付しない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することがある。

（管理の代行）

第16条　博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の２第３項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であって教育委員会が指定するものに行わせる。

（指定の申請）

第17条　教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2　前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会の定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会が定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

（欠格条項）

第18条　次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

(1)　破産者で復権を得ないもの

(2)　法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消しの日から2年を経過しないもの

(3)　その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうちに、次のいずれかに該当する者があるもの

ア　第１号に該当する者

イ　禁錮禁以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者

ウ　公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

（指定管理予定者の選定）

第19条　教育委員会は、第17条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの（以下「指定管理予定者」という。）として選定してはならない。

(1)　住民の平等な利用が確保されること

(2)　第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図れるものであること

(3)　博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること

(4)　前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

（指定管理者の指定等の公告）

第20条　教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。

（業務の範囲）

第21条　指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

(1)　第3条各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること

(2)　建物及び附属設備の維持保全に関すること

(3)　その他博物館の管理に関すること

（施行の細目）

第22条　この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が定める。

附則（抄）

この条例の施行期日は、市長が定める。

（　施行期日　昭和49年4月2日市告示１２０）

○自然史博物館規則

制定　昭49.4.26(教) 規則12
最近改正　平18.3.31(教) 規則6

大阪市立自然科学博物館規則(昭和32年大阪市教育委員会規則第16号)を次のように改正する。

大阪市立自然史博物館規則

(開館時間)

第1条　自然史博物館(以下「博物館」という。)の開館時間は、午前9時30分から、午後4時30分までとする。ただし、都合により変更することがある。

(休館日)

第2条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、都合により変更し、又は臨時に休館することがある。

(1)　月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)にあたる場合は、その翌日

(2)　12月28日から翌年1月4日まで

(入館の制限)

第3条　次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることがある。

(1)　他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者

(2)　資料又は施設を損傷するおそれがある者

(3)　他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者

(4)　管理上必要な指示に従わない者

(5)　その他教育委員会が管理上支障があると認める者

(観覧)

第4条　博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付して観覧券の交付を受けなければならない。

2　観覧券の交付は、閉館時刻の30分前までとする。

(観覧料)

第5条　大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定による観覧料は、1人1回につき、次表のとおりとする。

区　　分	観覧料
高等学校、高等専門学校及び大学並びにこれに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

2　条例第4条第3項の規定による観覧料は、1人1回につき、1,200円以内でその都度教育長が定める。

(使用許可の申請)

第6条　条例第5条第1項の規定により特別展示室又は講堂(以下「施設」という。)の使用許可を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載してこれを教育委員会に提出しなければならない。

(1)　申請者の氏名及び住所又は勤務先(団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地)

(2)　使用の日時

(3)　使用の目的

(4)　使用する施設及び附属設備

(5)　特別の設備をしようとするときは、その内容

(6)　入場者の予定人員

(7)　入場料その他これに類する料金を徴収するときは、その金額

(8)　その他教育委員会が必要と認める事項

2　前項の規定により申請した事項を変更しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。

3　第1項の申請書は、次に定める期間内に提出しなければならない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、この限りでない。

(1)　特別展示室の使用許可　使用期日の6月前の日から30日まで

(2)　講堂の使用許可　使用期日の3月前の日から7日前まで

(使用の制限)

第7条　次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用を許可しない。

(1)　公安又は風俗を害するおそれがあるとき

(2)　営利を目的とするとき

(3)　建物、附属設備又は展示品を損傷するおそれがあるとき

(4)　管理上支障があるとき

(5)　その他教育委員会が不適当と認めるとき

2　次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることがある。

(1)　偽りその他不正の手段により条例第5条の許可を受けたとき

(2)　前項各号に定める事由が発生したとき

(3)　条例又はこの規則に違反し、条例又はこの規則に基づく指示に従わないとき

(使用料)

第8条　条例第5条第2項に規定する使用料は、別表第1のとおりとする。

2　条例第5条第3項に規定する使用料は、別表第2のとおりとする。

(観覧料等の減免及び還付)

第9条　観覧料又は使用料(以下「観覧料等」という。)の減免及び還付は、教育長が行う。

2　観覧料等の減額又は免除は、次の各号に定めるところによる。

(1)　30人以上の団体で入場するときは、観覧料から次に掲げる額を減額することがある。

ア　30人以上50人未満の団体　観覧料の1割

イ　50人以上100人未満の団体　観覧料の2割
ウ　100人以上の団体　観覧料の3割
(2)　常設展示場に入場する者が長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料から長居植物園の入場料相当額を免除する。
(3)　前2号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、観覧料等を減額又は免除する。

(資料等の利用)
第10条　資料及び施設の利用については、教育長が定める。

(損害賠償)
第11条　資料又は施設を損傷又は滅失させた者は、教育委員会の指示によりこれを原状に復し、代物を弁償し、又はその損害を賠償しなければならない。

(資料等の寄贈及び寄託)
第12条　博物館に、資料等を寄贈若しくは寄託し、又は寄託物の返還を請求しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料等の取扱い)
第13条　寄託を受けた資料等は、特別の契約がある場合のほか、本市所有のものと同じ取扱いをする。

(寄託資料等の免責)
第14条　寄託を受けた資料等が、災害その他の不可抗力によつて滅失又は損傷した場合、本市は損害賠償の責めを負わない。

(施行の細目)
第15条　この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附　則
この規則は、昭和49年4月27日から施行する。

附　則(昭和51年4月1日(教)規則第15号)
この規則は、公布の日から施行する。

附　則(昭和56年4月1日(教)規則第17号)
1　この規則は、公布の日から施行する。
2　この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則(昭和61年4月1日(教)規則第10号)
この規則は、公布の日から施行する。

附　則(平成元年4月1日(教)規則第9号)
1　この規則は、公布の日から施行する。
2　この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則(平成4年4月1日(教)規則第24号)
1　この規則は、公布の日から施行する。
2　この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号)第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附則(平成5年4月1日(教)規則第3号)
この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成7年4月1日(教)規則第18号)
この規則は、平成7年5月1日から施行する。

附則(平成13年4月27日(教)規則第20号)
この規則は、公布の日から施行する。

附則(平成18年3月31日(教)規則第6号)
この規則は、平成18年4月1日から施行する。

別表第1(第8条関係)

区　　分	使　用　料		
	午　前	午　後	全　日
特別展示室			32,000円
講　　堂	7,000円	10,000円	17,000円

備　考
この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする。

別表第2(第8条関係)

	区　　分	使　用　料		
		午　前	午　後	全　日
特別展示室	冷房設備		16,000円	16,000円
	暖房設備		16,000円	16,000円
講堂	冷房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖房設備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡声装置	1式 午前、午後各1回につき 1,800円		
	マイク	1本 午前、午後各1回につき 1500円		
	ワイヤレスマイク	1本 午前、午後各1回につき 1,100円		
	テープレコーダー	1台 午前、午後各1回につき 900円		
	スライド映写機(スクリーン付)	1台 午前、午後各1回につき 1,300円		
	16ミリ映写機(スクリーン付)	1台 午前、午後各1回につき 4,200円		
	ビデオ装置	1式 午前、午後各1回につき 2,200円		
	液晶プロジェクター(スクリーン付)	1台 午前、午後各1回につき 1,900円		

備考
この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする。

○　大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制　　定　昭49．4．27
最近改正　平18．4．1

（目的）

第１条　この要綱は大阪市立自然史博物館規則第５条（平成18年大阪市教育委員会規則第６号。以下「規則」という。）の規定による観覧料及び使用料（以下「観覧料等」という。）の減免に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（学校園等の教職員等の観覧料）

第２条　保育所、幼稚園、小学校、中学校、盲学校、聾学校（以下「学校園等」という。）又は養護学校の保育士又は教職員が、学校行事で園児、児童又は生徒を引率して大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）に入場しようとするときは、当該保育士又は教職員の観覧料を免除する。

２　前項の観覧料の免除を受けようとするときは、学校園等の長は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに大阪市教育委員会（以下「教育委員会」という。）にあらかじめ提出しなければならない。

（１）入館の日時
（２）学校園等の名称、住所及び代表者氏名
（３）入館の目的
（４）入館者の予定人員
（５）引率責任者の氏名
（６）その他教育委員会が必要と認める事項

（社会福祉施設の教職員等の観覧料）

第３条　次の各号に掲げる法律に基づき設置された社会福祉施設の職員又は介護者が、入所者を引率して博物館に入場しようとするときは、職員、介護者（ただし、入所者１名につき１名に限る。）及び入所者の観覧料を免除する。

（１）生活保護法（昭和25年法律第144号）
（２）児童福祉法（昭和22年法律第164号）
（３）身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）
（４）知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）
（５）精神保健及び精神障害福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）
（６）老人福祉法（昭和38年法律第133号）

２　前項の観覧料の免除を受けようとするときは、社会福祉施設の長は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

（１）入館の日時
（２）社会福祉施設の名称及び代表者氏名
（３）施設の設置根拠となる法律の名称
（４）入館者の予定人員
（５）引率責任者の氏名
（６）その他教育委員会が必要と認める事項

３　次の各号に掲げる法令の規定による手帳等の所持者及びその介護者が博物館に入場しようとするときは、当該所持者及びその介護者1名の観覧料を免除する。

（１）第１項第３号に掲げる法律の規定による身体障害者手帳
（２）第１項第５号に掲げる法律の規定による精神障害者保健福祉手帳
（３）知的障害者福祉法施行令（昭和35年政令103号）の規定による判定書
（４）原子爆弾被害者に対する援護に関する法律（平成６年法律第117号）の規定による被爆者健康手帳
（５）戦傷病者特別援護法（昭和38年法律第168号）の規定による戦傷病者手帳

（大阪市内在住者の観覧料の特例）

第４条　大阪市内在住の65歳以上の市民で本市発行の健康手帳又は敬老優待乗車証を所持している者は、観覧料を免除する。

（視察等の観覧料）

第５条　次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、観覧料を免除することがある。

（１）市政に関する相互交流等のため、博物館を視察するとき
（２）団体観覧の事前調査のため、博物館を視察するとき
（３）その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

２　前項の観覧料の免除を受けようとする者は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、観覧する日の７日前までに教育委員会に提出しなければならない。

（１）入館の日時
（２）団体等の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
（３）視察の目的
（４）入館者の予定人員
（５）視察する者の代表者の氏名
（６）その他教育委員会が必要と認める事項

（使用料）

第６条　次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、規則第３条に規定する特別展示室、講堂及び附属設備の使用料を減額又は免除することがある。

（１）指定管理者が実施する博物館の事業と関連を有する講演会、講習会その他で、教育委員会が学術振興又は普及教育等に資すると認め

る行事に使用するとき
（２）博物館事業を行う指定管理者がNPO又は市民グループと連携を図る事業で、教育委員会が必要であると認める行事に使用するとき
（３）博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第１条の規定に基づく博物館実習に使用するとき
（４）その他特別な事情により、教育委員会が必要であると認めるとき

２　前項の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の免除願に次に掲げる事項を記載し、使用する日の７日前までに教育委員会に提出しなければならない。
（１）使用の日時
（２）申請者の氏名及び住所（団体にあっては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
（３）使用の目的
（４）使用する施設及び附属設備
（５）入館者の予定人員
（６）その他教育委員会が必要と認める事項

附　則

この要綱は、平成13年４月27日から施行する。

附　則

この改正要綱は、平成18年４月１日から施行する。

○　博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館
制定　平成 7年 2月 1日
改定　平成13年 3月10日

（目　的）
1　この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づく、大学からの博物館実習生の受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

（受入の規制）
2　受入れの時期は夏期（7月後半～8月末）又は秋期（10月初～11月末）の期間中とし、1人当りの実習日数は5以内で、当館が指定する。
3　受入れ人数の総数は、年間20名以内とする。ただし、1大学については5名以内とする。
4　受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学又は地学関係の教科を履修し（一般教養でも可）、その単位を取得している者に限る。
5　実習の内容は、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助などとする。

（受入れの願書）
6　博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係又は博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期及び希望者名を記した内諾伺文書を、当該年度の4月末までに、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。
　なお、学生個人からの依頼は受付けない。

（受入れの諾否）
7　当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に諾否を回答する。

（その他）
8　大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室又は学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。

※各年度における実習日程については、当該年度4月までに、ホームページ上に掲載する。

○　建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

制　　定　昭51．12．
改　　正　昭54．　7．
最近改正　昭62．12．

（目的）

1　この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

（撮影等の規制）

2　個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。

3　純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

（撮影等の許可願）

4　前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

（許可条件）

5　前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。

(1)　入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。

(2)　撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。

(3)　撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。

(4)　写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。

(5)　その他詳細については、当館と打ち合せすること。

（その他）

6　当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

決裁	管理課長	庶務係長	係　員
年			
月	学芸課長	主任学芸員	学 芸 員
日			

写真・テレビ撮影等許可願

平成　　年　　月　　日

大阪市立自然史博物館長様

所　在　地
会社・団体名
代表者氏名印
（担 当 者:　　）
（電話番号:　　）

次のとおり、写真・テレビ撮影等を許可くださるようお願いします。

日　　時	平成　　年　　月　　日（　　）　時　　分～　時　　分
目　　的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	
（テレビの場合） 放 映 日 時 番　組　名 タ イ ト ル （写真の場合） 掲 載 紙 名 記 事 タ イ ト ル 著　者　名 発 行 者 名 発 行 年 月 日	

写真・テレビ撮影等許可書

様

大阪市立自然史博物館
館 長

平成　　年　　月　　日付で申請のあった「写真・テレビ撮影許可願」について次のとおり許可します。

日　　時	平成　　年　　月　　日（　　）　時　　分～　時　　分
目　　的	
撮影場所・資料等	
人数・使用機材	

（許可条件）

（1）入園・入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料を損傷させないこと。

（2）撮影した写真等の使用は、今回の許可願いの事項に限ること。

（3）撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。

（4）写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。

（5）その他詳細については、当館と打ち合わせすること。

○　外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館
制定　平成12年 4月 1日

第1条（目　的）

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という。）の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び会　議室、集会室、実習室、講堂の部屋利用については別に定める。

第2条（定　義）

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

(1) 一時利用者

研究上の目的で、当館の施設及び標本を一時的に利用する者。

(2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者とする。

・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、又は学会で当該分野における研究実績が認められる者。

・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行おうとする者。

・　共同研究員

当館の総合研究、グループ研究に参加する者。

第3条（期　間）

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

(1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

(2) 研究生・共同研究員

研究計画上必要と認められる期間。

第4条（手続き）

(1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員（利用しようとする標本又は設備を管理する学芸員）から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票（様式1）に記入する。

(2) 長期利用者

長期利用を希望する者は、所属機関の長又は指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書（様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付）を館長あてに提出する。

なお、機関に属しない者については、直接の申請ができることとする。（様式3）。

申し込み期限は利用開始の前々月15日とする。（外来研究員については前年度2月15日）。

第5条（許　諾）

前条の申し込みについての許諾は、館内の選考委員会による審議を経て、館長が決定する。

第6条（経　費）

当館は、外来研究者の施設利用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については関係者で協議の上、決定する。

第7条（報　告）

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない。

第8条（成　果）

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物又はその複写物を館長に提出しなければならない。

第9条（変更・中止）

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

第10条（資格の取消し）

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる

様式１

No.

大阪市立自然史博物館　研究設備・機器、収蔵資料

一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一時的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利　用　日	平成　　年　　月　　日		
目　　的			
利用する設備・機器、収蔵資料			
利用者	氏　　名	所 属 ま た は 住 所	電話連絡先
担当学芸員名			

決裁	館　長	副 館 長	庶務課長	学芸課長	管理係長	係　員	学 芸 員

様式２

大阪市立自然史博物館　長期利用申請書

平成　　年　　月　　日

大阪市立自然史博物館長　様

（所属機関の長または指導教官）
所属機関
所 在 地
電　　話
職　　名
氏　　名　　印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員　・　研究生　・　共同研究員　（○で囲む）
研 究 者	所属部局（教室）、職名（学生）、電話連絡先
	氏　名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、収蔵資料	

様式３

大阪市立自然史博物館　長期利用申請書

平成　　年　　月　　日

大阪市立自然史博物館長　様

（本人）
住　　所
電　　話
氏　　名　　印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員　・　研究生　・　共同研究員　（○で囲む）
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、収蔵資料	

ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2007

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan

Issued : March 31, 2009.